北杜市埋蔵文化財調査報告　第14集

山梨県北杜市

御崎前遺跡 I

市道若神子大蔵線工事に伴う緊急発掘調査報告書

2006

山梨県峡北地域振興局建設部

北杜市教育委員会

北杜市埋蔵文化財調査報告　第14集

山梨県北杜市

御崎前（みさきまえ）遺跡 I

市道若神子大蔵線工事に伴う緊急発掘調査報告書

2006

山梨県峡北地域振興局建設部

北杜市教育委員会

例言

1　本書は、山梨県北杜市須玉町若神子字御崎前で施工された市道若神子大蔵線新設工事に伴う御崎前（みさきまえ）遺跡緊急発掘調査の報告書である。

2　本調査の現地作業は、平成17年9月9日に着手し、平成17年10月21日に完了した。調査記録と出土品の整理作業は、平成18年1月16日に着手し、平成18年3月31日に完了した。

3　発掘調査は、市道若神子大蔵線新設工事（県代行事業）の事業主体である山梨県峡北地域振興局建設部の経費負担を受けて、工事施工前に実施した。

4　発掘調査は北杜市教育委員会が直営で実施した。調査組織は下記のとおりである。

調査主体　　北杜市教育委員会教育長　小清水淳三
調査担当　　北杜市教育委員会生涯学習課文化財担当　主査　佐野隆
調査事務局　　北杜市教育委員会生涯学習課

5　本書の執筆、編集は、佐野があたった。

6　本遺跡の出土品及び調査に係わる諸記録は、北杜市埋蔵文化財センターが保管している。

7　確認調査の実施にあたって以下の方々と機関に、ご協力とご指導を賜った。ご芳名を記して感謝したい（五十音順・敬称略）。

峡北地域振興局建設部、山梨県教育委員会学術文化財課

9　調査参加者（五十音順・敬称略）

浅川　英光、厚芝　金夫、栗澤　美香、石原すみえ、石渡　節子、井手　正美、井上　町子、
長田　重子、小澤　久恵、小野　一英、小野　芳江、片山　和江、菱松　章子、上村ゆきえ、
河手　寿子、小松原千津、酒巻　正道、篠原恵美子、清水　貞子、清水　里子、清水さゆり、
清水　尋、清水やす子、清水　泰倫、鈴木　節夫、田代　武士、筒井つや子、壷屋てる子、
野崎美智江、長谷川規愛、伏見　徳芳、藤原喜美子、水上　勝美、三井　喜満、三井つや子、
皆川　禮子、宮崎　夏子、山田　雅子、山中　敏夫、八巻　久子、八巻まさ子

凡例

1　報告書中の地図は、国土地理院発行2万5千分の1地形図「若神子」「韮崎」、5万分の1地形図「八ヶ岳」「韮崎」「鰍沢」「金峰山」「御岳昇仙峡」「甲府」、山梨県峡北地域振興局建設部作成「市道若神子大蔵線工事設計図」、須玉町役場「須玉町全図」（廃版）を使用した。

2　図版及び観察表中の遺構埋土色及び土器胎土色は、『新版標準土色帖』財団法人日本色彩研究所に拠った。

目次

例言・凡例

第１章　調査の概要……　1
　調査の経緯……　1
　遺跡周辺の環境……　2
　調査の範囲と方法……　2

第２章　遺構と遺物……　9
　１号住居跡……　9
　１号・２号溝状遺構……　9
　１号・２号集石土坑……　9
　１号配石……　9
　２号配石……　9
　３号配石……　10
　４号・17号配石……　10
　８号配石……　10
　９号配石……　10
　10号配石……　11
　13号・14号配石……　11
　１号～17号掘立柱建物跡……　11
　土坑・ピット……　11
　遺構外の出土遺物……　12

第３章　調査の総括……　12

表目次

第１表　御崎前遺跡周辺遺跡一覧……　5
第２表　土器・土製品一覧……　13
第３表　石器・石製品一覧表……　14
第４表　出土銭貨一覧表……　15
第５表　土坑観察表……　16
第６表　ピット観察表……　17

挿図目次

第１図　御崎前遺跡と周辺の遺跡……　4
第２図　遺跡位置図……　6
第３図　土木工事の範囲と調査の範囲……　6
第４図　基本層序図……　6
第５図　配石・集石配置図……　7
第６図　遺構配置図……　8
第７図　１号住居、１号住居カマド・出土遺物…　23
第８図　1号,2号溝, 1号,2号溝エベレーション・出土遺物…　24
第９図　１号、２号集石、１号配石・出土遺物　25
第10図　２号、３号配石……　26
第11図　４号、17号配石・出土遺物……　27
第12図　８号配石……　28
第13図　８号配石出土遺物……　29
第14図　９号配石・出土遺物……　30
第15図　９号配石出土遺物……　31
第16図　10号配石・出土遺物……　32
第17図　13号、14号配石①……　33
第18図　13号、14号配石②・出土遺物……　34
第19図　13号、14号配石出土遺物……　35
第20図　掘立柱建物配置図、掘立柱建物……　36
第21図　掘立柱建物……　37
第22図　掘立柱建物……　38
第23図　掘立柱建物……　39
第24図　７号、９号土坑・出土遺物……　40
第25図　11号、22号土坑・出土遺物……　41
第26図　41号土坑、51号土坑・出土遺物……　42
第27図　52号、63号、65号土坑・出土遺物……　43
第28図　17号ピット、土坑・ピット出土遺物…　44
第29図　土坑・ピット出土遺物……　45
第30図　土坑・ピット出土遺物……　46
第31図　造構外出土遺物……　47
第32図　造構外出土遺物……　48

写真図版目次

写真図版1　御崎前遺跡遠景……51
御崎前遺跡全景……51
図版写真2　御崎前遺跡全景……52
御崎前遺跡近景……52
写真図版3　御崎前遺跡の基本層序……53
1号住居カマド……53
写真図版4　1号溝……54
2号溝……54
写真図版5　1号集石検出状況……55
1号集石半截状況……55
写真図版6　2号集石検出状況……56
2号集石完掘状況……56
写真図版7　1号配石……57
2号配石……57
図写真版8　3号配石検出状況……58
3号配石完掘状況……58
写真図版9　4号（17号）配石……59
8号配石検出状況……59
写真図版10　8号配石下層の石列と溝……60
9号配石検出状況……60
写真図版11　9号配石下層の石列……61
9号配石下層の溝……61
写真図版12　10号配石……62
13号・14号配石……62
写真図版13　13号・14号配石下層の配石面……63
1号・4号掘立柱建物……63
写真図版14　7号土坑　9号土坑……64
11号土坑　41号土坑……64
写真図版15　51号土坑　52号土坑……65
65号土坑上面の配石……65
65号土坑完掘の配石……65
17号ピット　197号ピット……65
写真図版16　平安時代の土器……66
墨書土器と石製品……66
中世の土器……66
中世の石器……66
写真図版17　中世の石器……67
2号溝遺物出土状況……67
1号集石完掘状況……67
写真図版18　1号配石検出状況……68
1号配石底面の灰と炭化材の検出状況　68
写真図版19　2号配石検出状況……69
2号配石底面の灰と炭化材の検出状況　69
写真図版20　3号配石の発掘状況……70
4号（17号）配石の検出状況……70
写真図版21　4号（17号）配石の上層礫を取り除いたところ　71
8号・9号配石の検出状況……71
写真図版22　10号配石の検出状況……72
10号配石の発掘状況……72
写真図版23　13号・14号配石の下層配石……73
13号・14号配石全景……73
写真図版24　調査地点の北隣接地にある石塔類　74
調査着手前の調査地点……74
重機による表土剥作業……74
作業風景……74

第1章　調査の概要

調査の経緯

近世初頭頃に開設されたという佐久往還は、山梨県韮崎市と長野県小諸市とを結ぶ山梨県北西部の幹線道路で、現在は国道141号線としてバイパス道路が整備されている。富士川水運の拠点として近世に成長した韮崎市から甲信国境までには、韮崎、中条、若神子、長沢の四宿があり、本遺跡は若神子宿の東側の一角に位置する。平成15年度から若神子宿を東西に横切る形で市道若神子大蔵線を新設する工事が計画されたため、須玉町教育委員会（当時）と北杜市教育委員会とが事前に試掘調査を実施したところ、一部で平安時代と中近世の埋蔵文化財が確認されたため（第3図中、第2次調査地点）、事業主体である山梨県峡北地域建設部（当時 現山梨県中北建設事務所）、北杜市役所土木部と協議した上で工事範囲423㎡を対象に、発掘調査を実施することとした。

発掘調査経費は、4,023,576円で、調査経費負担協定に基づき、事業主体である峡北地域振興局建設部が4,023,000円を負担し、576円を北杜市が負担した。

この発掘調査に係わる事務手続きは次のとおりである。

文化財保護法第94条による通知	平成17年8月4日付け峡北建第1860号
同通知に係わる指示通知	平成17年8月25日付け教学文第1330号
調査経費負担協定書	平成17年8月25日付け峡北建第2163号
文化財保護法第99条による発掘着手報告	平成17年9月12日付け北杜生学第696-3号
同条による発掘終了報告	平成18年4月18日付け北杜生学101-4号（以下見込み）
発掘調査実施結果報告書	平成18年4月13日付け北杜生学第1499号
埋蔵物発見届	平成18年4月18日付け北杜生学101-1号
埋蔵物保管請書	平成18年4月18日付け北杜生学101-2号
埋蔵文化財保管証	平成18年4月18日付け北杜生学101-3号

市道若神子大蔵線の計画路線内では、これまでに須玉町教育委員会が別地点で発掘調査を実施している。平成13年の御崎前遺跡（第3図中第1次調査）、平成16年度の後出遺跡の2回の発掘調査がそれである。したがって、本報告で扱う平成17年度の発掘調査は、都合3回目となる。

本発掘調査の日程は以下のとおりである。

平成17年　9月9日～	調査対象住居地点の除草・測量
9月9日～9月16日	重機による表土剥作業
9月13日～	発掘調査に着手
10月21日	航空写真撮影
10月21日	発掘調査終了・現場引渡し
1月16日	整理作業に着手
平成18年　3月31日	整理作業を終了

平成17年度に施工する地点での発掘調査の結果、縄文時代の土器、石器、平安時代の竪穴住居跡と溝状遺構、中世の掘立柱建物跡、集石土坑、土坑、墓、配石遺構、焼土を検出した。

中世もしくは近世の配石墓は出土品が乏しく時期決定が難しいが、地元の古老によるとかつて真言宗寺院があったとの伝承があるという。調査地点の北側には小型の五輪塔などが集められており、この伝承に係わるものと推測される。五輪塔は16世紀頃のものと思われる。近世若神子宿の前身である中世初頭頃の遺構を

期待したが、本調査区域では確認されなかった。

遺跡周辺の環境

本遺跡は、須玉川右岸の河岸段丘面上、標高525mに所在する。須玉川右岸には、少なくとも2面の河岸段丘面が認められ、遺跡が立地する段丘面は、狐玉川から2段目にあたり、須玉川からの現比高差は、6mほどである。遺跡が立地する段丘面は、西に向かって徐々に標高を増し、現在の若神子市街地が立地する微高地に至る。この微高地の西端は、八ヶ岳山麓に端を発する甲川（かぶとがわ）と西川（にしかわ）に区切られ、遺跡はこの微高地の東端に展開している。

平成13年度の御崎前遺跡の発掘調査、平成16年度の後田遺跡の発掘調査、そして今回の発掘調査において、それぞれ平安時代の竪穴住居が検出されている。平安時代には、河岸段丘面の平坦度は弱く、須玉川に向かって緩く傾斜する東面斜面状の地形であったようである。東西350mほど隔てて確認された、これら3地点の平安時代遺構が、同一の「集落」に属するものか、調査遺構数が限られるため、現地点では判断できないが、地形的には、同一の微高地上に展開しているものと思われる。

現在の若神子の市街地は、少なくとも13世紀頃には、「都市的空間」として存在していたことが、文献資料から窺える。

永仁三年（1295）、時宗第二世他阿真教遊行上人は、信濃国佯野荘から若神子に入り、布教活動を行ったと考えられ、若神子集落にある長泉寺は、この折に時宗に改修したと伝えられ、また、文安三年（1446）銘の名号板碑が奉納されている。三輪神社には永享七年（1435）銘の六地蔵石幢があり、山梨県指定文化財に指定されている。

若神子は、八ヶ岳山麓の南端にもあたり、須玉川、塩川、甲川、西川などが合流し、後の佐久往還といった幹線路が通る交通の要衝である。古代から開発が始まり、中世前半には、上記のごとく都市的空間が形成されるに至っていたと推測される。この都市的空間が、近世「若神子宿」、そして現在の若神子市街地の原型と考えられる。

戦国時代には、甲斐－信濃交通の要衝であったことから、戦国大名武田氏の信濃攻略、信濃経営の際の重要な拠点となっている。なお、中世以前の若神子の具体的様相は定かではない。

近世になると、特に佐久往還が主要街道として整備されると、現在の若神子に近い様相になる。

調査の範囲と方法

本発掘調査に先立ち、平成13年度に須玉町教育委員会（当時）が、平成17年度には北杜市教育委員会が試掘調査を実施した。明確な遺構は確認できなかったものの、工事要地の一部から平安時代の土師器、中近世陶磁器類が一定量、出土したことから、埋蔵文化財が所在すると判断される地点（第3図中、第2次調査地点）で発掘調査を実施することとした。

発掘調査は、まず表土を30cmから1mほど重機で剥ぎ取った後、人力でもって精査し、遺構確認を行った。遺構検出面は旧須玉川の氾濫原で、河原礫が堆積している。この中に、配石を伴う中世墓などが点在する。重機による表土剥ぎ取り作業の際に、一部の配石の石が移動してしまうこともあった。

調査区域の遺構検出面は、水田などの土地利用状況を反映して、削平が軽微で河原石が多い箇所（第4図第6層）と、大きく削平され、河原石下の黄褐色の砂質地山が露出する箇所（第4図第7層）とがある。前者の第6層中には須玉川起源の礫と、遺構に伴う礫とが混在する。また、この第6層では平安時代の遺構は確認できず、第7層で平安時代の遺構と遺物が検出される。

遺構検出後は、遺構種別に応じて略記号を付した。略記号は次のとおりである。なお、遺構名は、現場作業での必要性から便宜的に付したものであり、遺構の性格等を分析したうえで遺構を評価し、決定したもの

ではない。

ＰＨ－数字　平安時代の竪穴住居
ＨＯ－数字　掘立柱建物跡
ＨＳ－数字　配石遺構（主に中世の配石墓）
ＭＤ－数字　溝状遺構
ＳＤ－数字　焼土
ＳＹ－数字　集石土坑
ＤＫ－数字　土坑（直径 40cm 以上を土坑とした）
ＰＴ－数字　ピット（直径 40cm 未満で、柱穴と思われるもの）

出土遺物は、遺構に伴うと思われるものは遺構毎に、また遺構外の出土品は、遺構外を示す略記号「IG－数字」を付して、それぞれ光波測量器を用いて出土位置を測量・記録して取り上げた。これら以外に、重機による表土剥ぎ取り作業等で出土した遺物は、遺跡一括資料として取り扱った。

遺構の形状は、原則として光波測量器を用いて測量・作図した。また必要に応じて手実測による微細図を作図した。報告書中に記載する高度数字は標高である。測量基準点は、事業者が道路工事設計の際に設けた世界測地系第Ⅷ系による基準点から測量して設置したもので、その精度は４級基準点と同等程度である。

配石遺構を構成する石は、現場での肉眼観察の結果、すべて地山に含まれる須玉川起源の河原礫と判断され、加工を伴わなかったため、取り上げなかった。

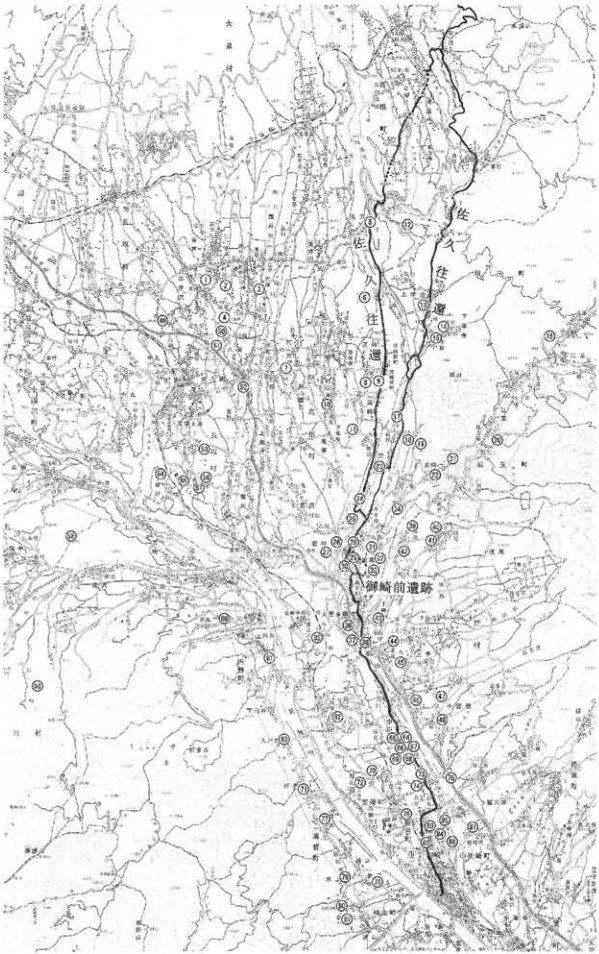
発掘調査終了後、遺跡が立地する地形環境を記録するために、航空写真を撮影した。

整理作業では、出土品を洗浄後に、すべての出土品を対象に注記作業を行った。整理作業の過程で、現場での取り上げ遺構名に齟齬があることが判明した場合もあったが、出土位置そのものの測量成果には誤りがないため、現場で付した取り上げ記号・番号を変更することなく、そのまま注記した。

遺跡は調査終了後に事業者へ引き渡し、計画通り市道新設工事が施工された。本発掘調査に係る諸記録、出土品は、全て北杜市埋蔵文化財センターに保管してある。

参考文献

須玉町教育委員会 2005 『後田遺跡－市道若神子、大蔵線建設工事に伴う発掘調査報告書－』
須玉町教育委員会 2002 『御崎前遺跡－町道若神子大蔵線第二次建設工事に伴う発掘調査報告書－』
須玉町教育委員会 2002 『須玉町史』

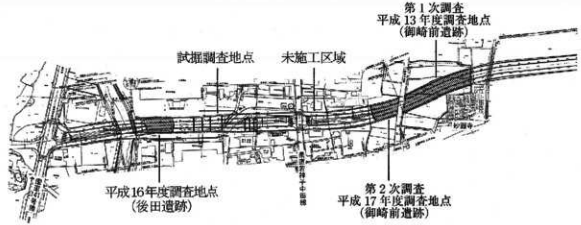


第１図　御崎前遺跡と周辺の遺跡

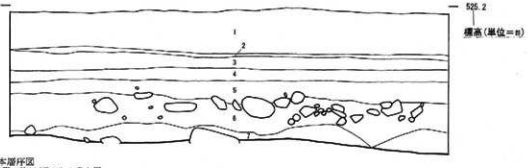
第１表　御崎前遺跡周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	所在地	遺構	参考文献		
1	谷戸氏屋敷	北杜市大泉町			2003「谷戸氏屋敷」『山梨県史　資料編7　中世4考古資料』	山梨県
2	史跡谷戸城跡	北杜市大泉町	土塁、空堀など	伊藤公明ほか	2000「史跡谷戸城跡及び周辺遺跡」『八ヶ岳考古　平成11年度年報』	北巨摩市町村文化財担当者会
				渡辺泰彦ほか	2001「史跡谷戸城跡及び周辺遺跡」『八ヶ岳考古　平成12年度年報』	北巨摩市町村文化財担当者会
				渡辺泰彦ほか	2002「史跡谷戸城跡及び周辺遺跡」『八ヶ岳考古　平成13年度年報』	北巨摩市町村文化財担当者会
				渡辺泰彦ほか	2003「史跡谷戸城跡及び周辺遺跡」『八ヶ岳考古　平成14年度年報』	北巨摩市町村文化財担当者会
				渡辺泰彦ほか	2004「史跡谷戸城跡」『八ヶ岳考古　平成15年度年報』	北巨摩市町村文化財担当者会
3	宮地第2遺跡	北杜市大泉町	地下式土坑13基	伊藤公明ほか	2000「宮地第2遺跡」『八ヶ岳考古　平成11年度年報』	北巨摩市町村文化財担当者会
4	金生遺跡	北杜市高根町	地下式土坑49基、掘立柱建物	新津健ほか	1988『金生遺跡Ⅰ（中世編）』	山梨県教育委員会
5	長沢砦	北杜市高根町		足達　満	1983『佐久往還』	山梨県教育委員会
6	旭山砦	北杜市高根町			2005「旭山砦」『山梨県史　資料編7　中世4考古資料』	山梨県
7	大柴氏屋敷	北杜市高根町			2005「大柴氏屋敷」『山梨県史　資料編7　中世4考古資料』	山梨県
8	湯森前遺跡	北杜市高根町	地下式土坑、土坑	坂本美夫	1999『湯森・湯森前遺跡』	山梨県教育委員会
9	湯森南台（東下）遺跡	北杜市高根町	土坑17基、溝状遺構1基、	[illegible]	2000『湯森南台（東下）遺跡』	山梨県教育委員会
10	中村氏屋敷	北杜市高根町			2005「中村氏屋敷」『山梨県史　資料編7　中世4考古資料』	山梨県
11	大坪塁	北杜市須玉町			2005「大坪塁」『山梨県史　資料編7　中世4考古資料』	山梨県
12	御大ヶ城	北杜市須玉町		須玉町	1998『須玉町史　第一巻　考古・古代・中世』	須玉町
13	古宮屋敷	北杜市須玉町		須玉町	2005「古宮屋敷」『山梨県史　資料編7　中世4考古資料』	山梨県
14	清水織殿助屋敷	北杜市須玉町		須玉町	1998『須玉町史　第一巻　考古・古代・中世』	須玉町
15	津金又十郎屋敷	北杜市須玉町		須玉町	1998『須玉町史　第一巻　考古・古代・中世』	須玉町
16	大渡の烽火台	北杜市須玉町		須玉町	1998『須玉町史　第一巻　考古・古代・中世』	須玉町
17	西川遺跡	北杜市須玉町		須玉町	1998『須玉町史　第一巻　考古・古代・中世』	須玉町
18	向山遺跡	北杜市須玉町		山路恭之助	2004「向山遺跡」『八ヶ岳考古　平成15年度年報』	北巨摩市町村文化財担当者会
19	丸茂右衛門尉屋敷	北杜市須玉町		須玉町	1998『須玉町史　第一巻　考古・古代・中世』	須玉町
20	獅子吼城	北杜市須玉町		須玉町	1998『須玉町史　第一巻　考古・古代・中世』	須玉町
21	上屋敷遺跡	北杜市須玉町		須玉町	1998『須玉町史　第一巻　考古・古代・中世』	須玉町
22	三枝土佐守屋敷	北杜市須玉町		須玉町	1998『須玉町史　第一巻　考古・古代・中世』	須玉町
23	御坪遺跡	北杜市須玉町	掘立柱建物	末木　健	1976『山梨県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書 ―北巨摩郡須玉町地内―』	山梨県教育委員会
24	小尾屋敷	北杜市須玉町		須玉町	1998『須玉町史　第一巻　考古・古代・中世』	須玉町
25	若神子北城	北杜市須玉町		須玉町	1998『須玉町史　第一巻　考古・古代・中世』	須玉町
26	若神子古城	北杜市須玉町		須玉町	1998『須玉町史　第一巻　考古・古代・中世』	須玉町
27	若神子南城	北杜市須玉町		須玉町	1998『須玉町史　第一巻　考古・古代・中世』	須玉町
28	若神子陣所	北杜市須玉町		須玉町	1998『須玉町史　第一巻　考古・古代・中世』	須玉町
29	御崎前遺跡	北杜市須玉町		須玉町	『御崎前遺跡』	須玉町
30	若神子砦	北杜市須玉町		須玉町	2005「若神子砦」『山梨県史　資料編7　中世4考古資料』	山梨県
				足達　満	1985『佐久往還』	山梨県教育委員会
31	真田隠岐守屋敷	北杜市須玉町		須玉町	1998『須玉町史　第一巻　考古・古代・中世』	須玉町
32	塚田遺跡	北杜市須玉町		山路恭之助	1984『中尾城遺跡、塚田遺跡』	須玉町教育委員会
33	滝下遺跡	北杜市須玉町		須玉町	1998『須玉町史　第一巻　考古・古代・中世』	須玉町
34	中尾城（中尾砦）	北杜市須玉町		須玉町	1998『須玉町史　第一巻　考古・古代・中世』	須玉町
				山路恭之助	1984『中尾城遺跡、塚田遺跡』	須玉町
35	宮下弥三郎屋敷	北杜市須玉町		須玉町	1998『須玉町史　第一巻　考古・古代・中世』	須玉町
36	大豆生田遺跡	北杜市須玉町		末木　健	1976『山梨県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書 ―北巨摩郡須玉町地内―』	山梨県教育委員会
37	大豆生田砦	北杜市須玉町		須玉町	1998『須玉町史　第一巻　考古・古代・中世』	須玉町
38	曽根伊予守屋敷	北杜市須玉町		須玉町	1998『須玉町史　第一巻　考古・古代・中世』	須玉町
39	熊代氏館	北杜市明野町			1986『山梨県の中世城館跡―分布調査報告書』	山梨県教育委員会
40	中村遺跡	北杜市明野町	地下式土坑群	大森隆志	1990『[illegible]Ⅰ・Ⅱ遺跡、坂の下遺跡、屋敷Ⅱ遺跡、中村遺跡』	明野村教育委員会
41	馬場跡	北杜市明野町	中世墳墓跡か			
42	寺前遺跡	北杜市明野町		[illegible]センター	1999『寺前遺跡調査概要』遺跡見学会パンフレット	明野村教育委員会
43	神取遺跡	北杜市明野町		佐野　隆	1994『神取』	明野村教育委員会
44	三井氏館	北杜市明野町				
45	屋敷添第2	北杜市明野町	ピット群	佐野　隆	1997『下大内遺跡、屋敷添第2遺跡、中原遺跡』	明野村教育委員会
46	深山田遺跡	北杜市明野町		佐野　隆	2000『深山田遺跡』	明野村教育委員会
47	下大内遺跡	北杜市明野町	土坑墓群、石敷土坑	佐野　隆	1999『下大内遺跡、屋敷添第2遺跡、中原遺跡』	明野村教育委員会
48	伝小笠原氏館	北杜市明野町				
49	横針中山遺跡	北杜市長坂町	地下式土坑[illegible]基、竪穴[illegible]基、集石[illegible]基、竪坑[illegible]基	村石眞澄	2000『横針前久保遺跡、米山遺跡、横針中山遺跡』	山梨県教育委員会
50	深草館（深草城・深草砦）	北杜市長坂町			2005「深草館」『山梨県史　資料編7　中世4考古資料』	山梨県
51	小和田遺跡	北杜市長坂町	居館、集落、墓域		2005「小和田遺跡」『山梨県史　資料編7　中世4考古資料』	山梨県
52	石原田北遺跡	北杜市長坂町	竪穴	平野　修	2001『石原田北遺跡（マート地点）』	石原田北遺跡発掘調査団
53	長坂氏屋敷	北杜市長坂町			2005「長坂氏屋敷」『山梨県史　資料編7　中世4考古資料』	山梨県
54	池之平北遺跡	北杜市長坂町	竪穴状遺構2基、地下式土坑3基	長谷川誠	2004「池之平北遺跡」『八ヶ岳考古　平成15年度年報』	北巨摩市町村文化財担当者会
55	三井氏屋敷	北杜市長坂町			2005「三井氏屋敷」『山梨県史　資料編7　中世4考古資料』	山梨県
56	鹿角西遺跡	北杜市長坂町	方形竪穴状遺構2基	村松佳幸	2001『鹿角西遺跡』	長坂町教育委員会
57	根知遺跡	北杜市長坂町	墓坑10基、火葬施設2基、	村松佳幸	2001『根知遺跡―第1次発掘調査報告書』	長坂町教育委員会
58	中山砦	北杜市武川町			2005「中山砦」『山梨県史　資料編7　中世4考古資料』	山梨県
59	星山古城	北杜市武川町			2005「星山古城」『山梨県史　資料編7　中世4考古資料』	山梨県
60	上原遺跡	北杜市武川町	地下式土坑7基	平田典一	2002「上原遺跡」『八ヶ岳考古　平成13年度年報』	北巨摩市町村文化財担当者会
61	石之坪遺跡	韮崎市		櫛原功一	2000『石之坪遺跡（東地区）』	石之坪遺跡発掘調査会
62	能見城	韮崎市			2005「能見城」『山梨県史　資料編7　中世4考古資料』	山梨県
63	入戸野氏屋敷	韮崎市				
64	松雲寺墓跡	韮崎市				
65	西福寺墓跡	韮崎市				
66	中田小学校遺跡	韮崎市		山下孝司	1985『中田小学校遺跡』	韮崎市教育委員会
67	中条宿	韮崎市		足達　満	1985『佐久往還』	山梨県
68	水上氏屋敷	韮崎市				
69	金山遺跡	韮崎市	土坑墓群	山下孝司	1986『金山遺跡、下木戸遺跡、中道遺跡』	韮崎市教育委員会
70	丸山の砦跡	韮崎市				
71	折井氏屋敷	韮崎市				
72	新府城跡	韮崎市		山下孝司	2001『史跡　新府城跡』	韮崎市教育委員会
73	駒井氏屋敷	韮崎市				
74	宮ノ前第2	韮崎市		山下孝司	1991『宮ノ前第2遺跡・北宮地遺跡』	韮崎市教育委員会
75	日ノ出砦	韮崎市	14・15世紀の墓跡			
76	御正屋敷	韮崎市				
77	青木氏屋敷	韮崎市				
78	水上氏屋敷	韮崎市				
79	武田信義館	韮崎市			2005「武田信義館」『山梨県史　資料編7　中世4考古資料』	山梨県
80	白山城北烽火台	韮崎市				
81	白山城	韮崎市			1999『白山城の総合研究』	韮崎市教育委員会
82	三光寺墓跡	韮崎市				
83	坂井南遺跡	韮崎市	16世紀代の集石土坑	山下孝司	1984『坂井南遺跡』	韮崎市教育委員会
84	殿田屋敷	韮崎市				
85	蔵の前墓跡	韮崎市				
86	願成墓跡	韮崎市				
87	鳥江砦	韮崎市				

第２図　遺跡位置図(1/5000)

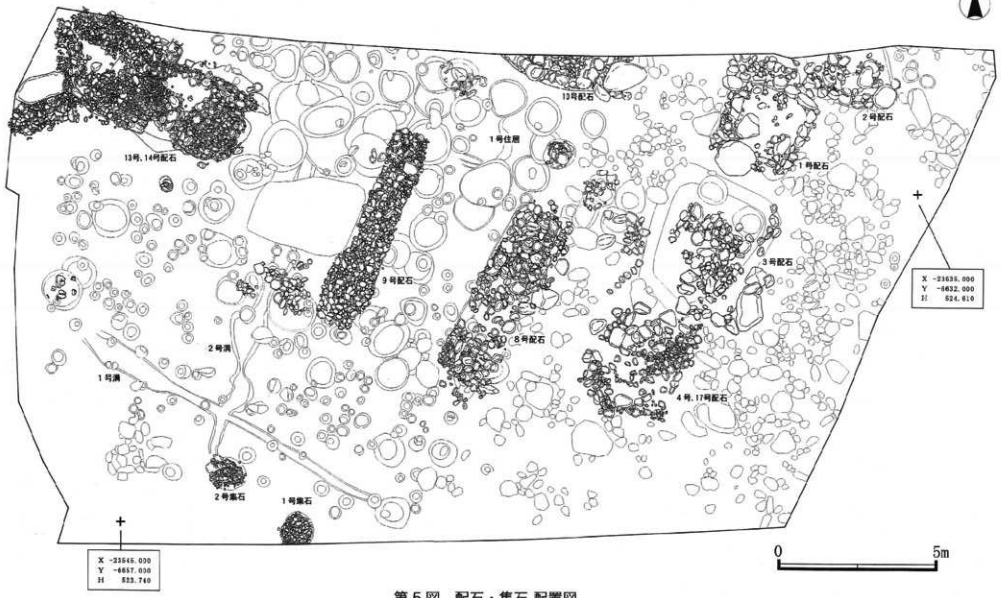


第３図　土木工事の範囲と調査の範囲(1/4000)

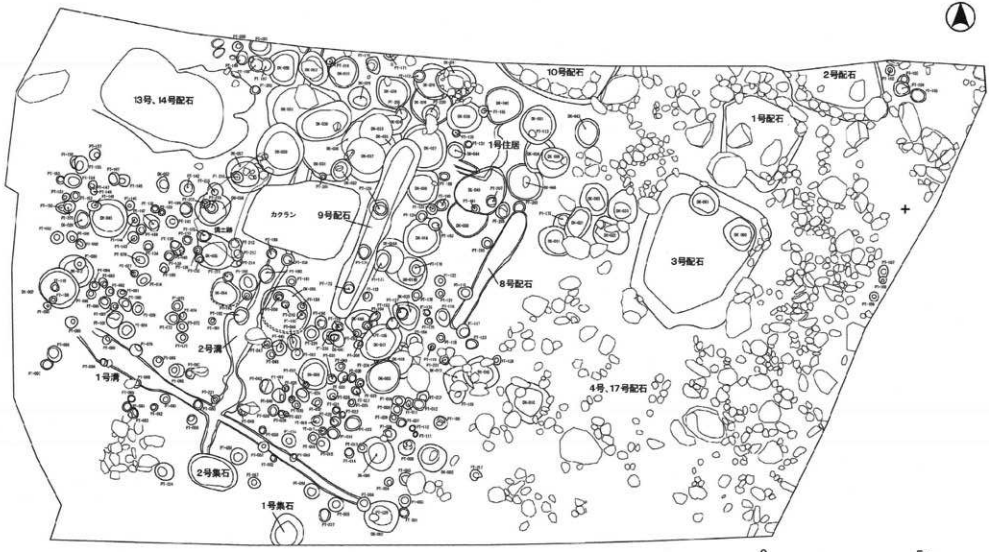


基本層序図
1層　盛石（砕石）の盛土層
2層　7.5YR3/3（暗褐）に7.5YR4/4（褐）が30%、2～10mmの礫が混じる。シルト粒土。固くしまる。（水田の鋤分汎着層）
3層　7.5YR4/1（褐灰）に7.5YR4/4（褐）が3%、炭化物が1%、2～10mmの礫が混じる。粘土。非常に固くしまる。（古い水田の耕作土層）
4層　7.5YR3/1（黒褐）に7.5YR4/6（褐）が5%、2～10mmの礫が混じる。粘土。非常に固くしまる。（古い水田の耕作土層）
5層　7.5YR4/6（褐）に7.5YR5/8（明褐）が40%、炭化物が5%、2～10mmの礫が混じる。シルト粒土。非常に固くしまる。（水田の床土層）
6層　7.5YR2/2（黒褐）に7.5YR3/4（暗褐）が3%、炭化物が2%、2～10mmの礫が混じる。シルト粒土。しまりなし。（戦国時代の遺成層）
7層　7.5YR3/4（暗褐）に7.5YR4/4（褐）が30%、炭化物が1%、2～10mmの礫が混じる。シルト粒土。しまる。（平安時代の遺構確認面）地山

第４図　基本層序図(1/40)


13号,14号配石
1号住居
12号配石
2号配石
1号配石
3号配石
9号配石
10・8号配石
4号,17号配石
2号溝
1号溝
2号集石
1号集石
X -23635.000
Y -6632.000
H 524.610
X -23645.000
Y -6657.000
H 523.740
0
5m

第５図　配石・集石 配置図


13号、14号配石
10号配石
2号配石
1号配石
1号住居
カクラン
9号配石
3号配石
8号配石
2号溝
1号溝
4号、17号配石
2号集石
1号集石
0
5m

第６図　遺構配置図

第２章　遺構と遺物

本発掘調査で検出された遺構は、平安時代の竪穴住居１軒、掘立柱建物跡17棟、配石遺構14基、溝状遺構２条、集石土坑２基、土坑61基、ピット231基、焼土跡１ヶ所である。以下、遺構ごとに調査成果を報告する。

１号住居跡（PH-1　第７図　写真図版３）

本調査区域で確認された唯一の住居跡で、平安時代の所産である。10号配石の南側に位置するが、周囲の中世と思われる土坑群と切り合い、ほとんど原形をとどめていない。かろうじてカマドと周溝が確認され、その周辺から平安時代の土師器がまとまって出土したため、認識できた。

遺構の規模は、土坑との重複が激しく不明である。カマドは、袖石の一部と焼土などが確認された。土師器坏、椀、土師器甕の破片724gが出土している。

出土品から住居の時期は、半安時代、９世紀末から10世紀前半と推測される。

１号・２号溝状遺構（MZ-1、MZ-2　第２図、第８図　写真図版４・17）

調査区を東西に走る溝状遺構は、幅50cm、深さ10cm程度の小溝である。溝を埋める埋土には、砂礫が一部でわずかに堆積する程度であったが、水路として機能していたか不明である。１号溝状遺構は、東西がすでに失われており、その全体像は不明である。２号溝状遺構は、南端は２号集石土坑と重複し、北端は土坑群と重複して失われている。２条の溝が交差しているが、交差地点を観察したところ、新旧関係はなく同時期のものと思われた。平安時代の土師器が出土し、中世と思われる土坑群、集石土坑に切られるため、平安時代の遺構と判断した。

１号・２号集石土坑（SY-1、SY-2　第９図　写真図版５・６）

調査区域の南端で検出された。径１m 程、深さ20cm程度で、拳大の礫がまとまっている。礫には変色、被熱痕は認められず、埋土中に焼土、炭化物、灰などは含まれていない。出土品は２号集石土坑で平安時代の土師器坏破片１gがあるが、遺構の時期を示す資料か判断できなかった。

１号配石（HS-1　第９図　写真図版７・18）

調査区北東端の礫が混じる地山で検出された方形の掘り込みで、四辺には礫が石垣状に並べられている。掘り込みの深さは50cmほどで、埋土はややしまった黒褐色土で、焼土粒子と炭化材小片が混じっていた。掘り込み底部付近には焼土と灰が集積した箇所があった。出土遺物は、中世のかわらけ破片16点102gがある。四辺に土留め石垣状に並べられた礫は、長片を横にして二段積みにしてあり、一部は地山の大小の礫をそのまま石垣に取り込んでいる。石垣に用いている礫は、須玉川起源の河原礫である。

以上の調査所見でこの遺構の性格を明確にすることはできなかったが、火葬後の遺骨を焼土や灰とともに納めた二次埋葬施設ではないかと推測される。ただし、焼人骨は出土していない。

この遺構の時期は、かわらけの形状から15世紀から16世紀代と推測される。

２号配石（HS-2　第10図　写真図版７・19）

１号配石の北に接して検出された掘り込みで、その形状はおおむね１号配石と同様である。遺構の半分は調査区外に位置する。遺物は出土していない。埋土の状況、床面上に焼土、灰が集積する箇所があることなども１号配石と共通する。同じ性格の遺構と考えられる。

3号配石（HS-3　第10・11図　写真図版8・20）

1号配石南側に近接して検出された堀込みである。礫混じりの地山に、礫が少なく黒褐色の掘り込みがはっきりと認識されたが、実際に底面まで発掘したところで、土坑が2基、重複していることが分かった。土坑との新旧関係は不明である。埋土はややしまった黒褐色土で、多数の大小の礫が混じる。

おおむね方形の掘り込みは、1号配石、2号配石に比べると大きい。遺構確認時点では分からなかったが、掘り込み底面で複数個所に焼土と灰が僅かであるが検出されていることから、1号配石と同様の遺構が複数重複している可能性もある。掘り込みの縁辺には、1号配石のような石垣状の礫は認められない。ただし、北東角の一部に小さな礫7個が列状に並ぶ箇所がある。

遺物は土鍋もしくは内耳鍋と思われる破片、天目茶碗破片などが出土している。

4号・17号配石（HS-4・HS-17　第11図　写真図版9・20・21）

3号配石の南側で検出された遺構で、掘り込みが非常に浅いものの、その形状と規模は、1号配石、3号配石に類似する。遺構検出時点の礫の並びから2基の遺構と認識したが、発掘後も同一遺構かどうか判断がつかなかった。大きめの礫がやや上層で方形に並ぶようにみえ、下層にはこまかな礫が多い。

1号配石等と同じく遺構底面には灰、炭、焼土が散布する箇所が検出され、同じ性格の遺構であると推測される。

「景徳元宝」、かわらけ、くぼみを穿った礫などが出土している。

8号配石（HS-8　第12・13図　写真図版9・10・21）

幅1m、長さ5.5mの範囲に大小の礫が配置された遺構で、礫を取り外したところ、下層から溝状遺構が検出された。2.5m西側に同様の形状の9号配石がほぼ併行して検出されている。礫の一部は、重機による表土剥ぎ取り作業の際、地山の礫と区別がつかずに外してしまった。

かわらけ、くぼみを穿った礫、内耳鍋破片、石臼破片が出土している。

1号配石などとは形状が異なる。建物基礎などの機能を考えてみたが、礎石になりうる上面が平坦な礫もなく、柱穴も確認されなかった。

9号配石（HS-9　第14・15・16図　写真図版10・11・21）

8号配石の西側で検出された配石遺構で、形状は8号配石に類似する。下層の溝状遺構内から3基のピットが検出されたが、溝状遺構検出面では確認されず、また上層の配石はピットを覆っているため、これらのピットは配石及び溝状遺構よりも古い遺構と判断される。9号配石では、上層に細かな礫が密集し、下層には根石状に大きな礫が並べられていた。

かわらけ、くぼみを穿った礫、石臼破片（第15図6）、五輪塔の地輪などが出土している。石臼破片は、8号配石出土の石臼（第13図7）と接合する。

10号配石（HS-10　第16図　写真図版12・22）

調査区北端で検出された遺構で、1号配石と同様に石垣状に積み重ねた礫で囲まれた方形の掘り込みである。掘り込みの深さは0.5mほどで、掘り込み内側の壁の土留め状の礫は、4段積みである。灰、焼土などは調査範囲で検出されなかったが、形状から1号配石と同様の性格を有する施設と考えられる。

くぼみを穿った礫が出土している。

13号・14号配石（HS-13　HS-14　第17・18・19図　写真図版12・13・23）

調査区北西端で検出された配石遺構で、上層に細かな礫を敷き詰め、下層には大きめの礫が充填されていた。水田造成の際に敷き込んだ礫層かとも思ったが、遺構精査時に掘り込みを伴うことが分かったため、2基の1号配石と同様の性格を有する配石遺構と考えた。

13号・14号配石を南東から北西に横切るように水田の暗渠があり、その部分の礫は乱れたり抜かれたりしている。遺構底面から灰、焼土などは検出されなかった。

かわらけ、染付陶器、打製石斧状の石器、くぼみを穿った礫、五輪塔の空風輪、火輪などが出土している。

1号～17号掘立柱建物跡（HO-1～HO-17　第20図～23図　写真図版13）

調査区の西側で17棟の掘立柱建物跡が確認されている。このうち、現地調査の時点で認識された建物跡は、1号掘立柱建物跡、4号掘立柱建物跡、12号掘立柱建物跡、16号掘立柱建物跡の4棟で、ほかは整理作業段階で、柱穴と思われるピットの組み合わせを検討して図上復元したものである。

ピットの出土遺物から建物跡の時期を想定すると、1号掘立柱建物跡では189号ピットから中世のかわらけ（30図1）、207号ピットから中世陶磁器（30図8）が出土し、5号掘立柱建物では146号ピットから中世のかわらけ（29図13）が、7号掘立柱建物跡では192号ピットから平安時代の土師器坏（30図5）、8号掘立柱建物跡では141号ピットから中世のかわらけ（29図12）が、それぞれ出土していて、平安時代と中世の所産と推測される。その他の掘立柱建物は、出土遺物がなく時期が推定できないが、おおむね同様の時期と思われる。

土坑・ピット（DK1～61、PT1～234　第1表、第2表、第24図～30図　写真図版14・15）

土坑とピットは、その大きさから機械的、便宜的に区分した。61基が確認された土坑のなかには、掘立柱建物跡を構成する柱穴と判断されたものも含まれる。土坑は、その出土品からおおむね中世の所産と想定される。

土坑の多くは、径1m前後で黒色の埋土で埋まり、確認面に配石を伴ったり、内部に礫が入っていたりする。51号土坑のように石製鉢を伴うものもあり、人骨は出土していないが、多くは中世の墓坑であろうと思われる。一方で、52号土坑のように柱穴と疑われるものもある。この土坑は割られた石臼を伴っている。

遺構外の出土遺物（第31図、32図）

調査区全体から、縄文時代、平安時代、中近世の遺物が出土している。縄文時代の遺物は後晩期の土器破片と打製石斧などの石器が若干出土している。近世遺物は、表土や攪乱箇所を除くと、江戸時代前期以降の遺物は少ないように見受けられる。銭貨も少なからず出土しているが、寛永通宝がみられず、新しいものでは永楽通宝までであることから、先の中近世陶磁器等の傾向に合致する。

遺構外出土の土器類は、縄文時代の土器が15点550g、平安時代の遺物は土師器坏（第31図1）1個体136gと坏皿破片148点750g、灰釉陶器7点50g、須恵器12点447g。第31図5の土師器の底部には穴が穿ってある。中世陶磁器は常滑焼など国産鍋壺類陶器破片（第31図12・13）が主となり、ほかにわずかに中国産青磁、白磁などの破片が混じる。これらは479点6330gである。かわらけと瓦質土器は143点5197g、近世陶磁器は54点226gである。第31図15・16は、中世の内耳鍋破片を加工した円盤状土製品である。

石器類は、打製石斧（第31図17）1点128g、磨石4点983g、敲石1点500g、石皿1点2000g、石鏃3点2.1g、黒曜石片33点49g、砥石（第32図7～10）4点121g、茶臼1点43g、石鉢1点5000g、石臼1点3800g、くぼみを穿った石器（第32図1～6）6点4056g、碁石（第32図14）1点13g、硯（第32図11）1点60g、

石器石材 13 点 242g、用途不明の石器（第 32 図 12・13）2 点 91g が遺構外から出土している。
銭貨は、宋銭、明銭が主で 19 枚が出土した。銭種が判明するものでは、永楽通宝 4、開元通宝 3、天元通宝 1 である。ほかに鉄製品 14 点 521.8g があるが、製品種別は不明である。

第 3 章　調査の総括

本発掘調査では、平安時代の竪穴住居跡と溝が検出された。これまでに実施された御崎前遺跡の発掘調査でも平安時代の遺構と遺物が確認されており、遺構密度は濃厚ではないが、平安時代集落跡が展開していることが判明した。ただし、その面的広がりは、今回の調査では明らかになっていない。

遺跡の主体となるのは、中世、おそらく 15 世紀から 16 世紀にかけての配石墓、墓坑、掘立柱建物跡であった。第 1 章でも若干触れたが、地元の古老の間には、調査区付近に真言宗寺院があったとの伝承があり、五輪塔などの石造物がまとまって安置されている土地がある。これらの中世墓群が、この伝承とどのように関連するのか、今回の調査では明確になっていないが、近世から現在までの若神子宿の土地利用とは異なった状況を窺い知ることができる。

第2表　土器・土製品一覧

図版番号	遺構名	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土色調	残存度	重量(g)	特徴、胎土質、釉調、出土位置
7図1	1号住居	甲斐型土師器	坏	(13.8)	3.9	7	10YR5/3（にぶい黄褐）	1/3	66	底部回転糸切り痕、カマド出土
7図2	1号住居	甲斐型	皿	11.8	2.6	4.9	7.5YR5/6（橙）	1/2	49	外面ヘラ削り、カマド出土
7図3	1号住居	甲斐型	坏	12.8	4.6	5.1	5YR6/6（橙）	2/3	64	スス付着、外面ヘラ削り、底部ヘラケズリ、カマド出土
7図4	1号住居	甲斐型	鉢	25.6	8.9	11	7.5YR6/6（橙）	1/2	485	外面ヘラ削り、　内面放射状暗文、カマド出土
8図1	2号溝	甲斐型	皿	(13.4)			5YR6/6（橙）	小破片	15	外面ヘラ削り
8図2	2号溝	信州系	坏	(14.0)			7.5YR7/6（橙）	小破片	11	内面黒色処理
8図3	2号溝	甲斐型	坏				5YR5/6（明赤褐）	小破片	6	墨書「大方」
8図4	2号溝	甲斐型	坏				7.5YR7/4（にぶい橙）	小破片	1	墨書あり　ヘラ削り
8図5	2号溝	灰釉陶器	椀	(18.4)			2.5YR8/1（灰白）	小破片	25	釉：7.5Y6/3（オリーブ黄）
9図1	1号配石	かわらけ				(7.0)	7.5YR8/6（浅黄橙）	小破片	22	底部回転糸切り痕
9図2	1号配石	かわらけ				(8.0)	7.5YR8/3（浅黄橙）	小破片	21	底部回転糸切り痕
9図3	1号配石	かわらけ				(8.4)	7.5YR8/3（浅黄橙）	小破片	28	底部回転糸切り痕
11図1	3号配石	陶器	内耳土器	(36.8)			7.5YR6/4（にぶい橙）	小破片	125	
11図2	3号配石	中世陶磁器	天目茶碗	12.0			10YR7/4（にぶい黄橙）	小破片	10	
11図3	4号配石	かわらけ		(12.0)			5YR4/6（赤褐）	小破片	8	
13図1	8号配石	かわらけ		(7.4)	1.6	(3.0)	7.5YR5/4（にぶい褐）	1/3	23	底部糸切り痕
13図2	8号配石	かわらけ		(13.0)			7.5YR7/4（にぶい橙）	小破片	11	
13図3	8号配石	かわらけ		(7.5)	2.1	(4.2)	7.5YR7/6（橙）	小破片	12	スス付着、底部糸切り痕
13図4	8号配石	かわらけ		(14.4)			5YR7/4（にぶい橙）	小破片	7	
13図6	8号配石	陶器	内耳土器			(23.8)	5YR7/2（明褐灰）	小破片	30	
14図1	9号配石	かわらけ		12.0			5YR6/6（橙）	小破片	17	
18図1	13号配石	かわらけ		(7.0)			10YR6/4（にぶい黄橙）	小破片	8	
18図2	13号配石	近世陶磁器		(16.0)			2.5Y8/2（灰白）	小破片	17	
26図1	41号土坑	かわらけ		(13.7)			5YR6/6（橙）	小破片	9	
26図2	41号土坑	かわらけ		(8.4)	2.2	4.6	5YR4/6（赤褐）	1/3	34	
26図3	41号土坑	円盤状土製品					10YR5/3（にぶい黄褐）		10	
28図1	65号土坑	国産陶磁	甕	(46.0)				小破片	31	常滑産、注記は12号配石
28図2	65号土坑	かわらけ		(6.8)	16.5	(3.5)	10YR8/3（浅黄橙）	小破片	12	
28図5	17号ピット	かわらけ		(10.0)	2.3	5.1	10YR6/4（にぶい黄橙）	完形	121	スス付着、底部回転糸切り痕
28図8	23号土坑	中世陶磁器	天目茶碗			4.2～4.3	5YR8/2（灰白）	小破片	43	
28図10	26号土坑	かわらけ		(10.6)	2.2～2.3	(6.2)	5YR6/6（橙）	小破片	22	
28図12	29号土坑	かわらけ		(12.8)	2.4	(7.4)	7.5YR7/6（橙）	小破片	20	
29図1	30号土坑	かわらけ		(10)	2.1	(6.0)	7.5YR5/4（にぶい褐）	小破片	22	
29図2	30号土坑	緑釉陶器					2.5YR7/2（灰黄）	小破片	7	平安時代、釉調10YR6/2（オリーブ灰）
29図4	36号土坑	かわらけ		(7.0)	1.6	(3.6)	10YR7/3（にぶい黄橙）	小破片	8	
29図5	45号土坑	かわらけ		(11.1)	2.2	6.1	7.5YR7/4（にぶい橙）	2/3	88	底部回転糸切り痕
29図6	49号土坑	かわらけ		(6.8)	1.6	(3.0)	7.5YR7/4（にぶい橙）	小破片	14	
29図8	53号土坑	かわらけ		(8.0)	1.7	(5.0)	7.5YR8/4（浅黄橙）	小破片	22	
29図9	58号土坑	陶器	内耳土器	(36.0)	16.2	27	7.5YR6/6（橙）	小破片	430	
29図12	141号ピット	かわらけ		(8.0)	1.8	3.6	7.5YR8/4（浅黄橙）	小破片	16	8号掘立柱建物、底部回転糸切り痕
29図13	146号ピット	かわらけ		(12.0)	2	(6.2)	7.5YR7/6（橙）	小破片	10	5号掘立柱建物
29図15	155号ピット	かわらけ		(8.0)	14～15.5	(4.2)	7.5YR6/6（橙）	1/3	23	底部回転糸切り痕
29図17	170号ピット	青磁	皿	(9.0)			2.5YR7/1（灰白）	小破片	11	釉調7.5YR6/1（灰）
30図1	189号ピット	かわらけ		(9.0)	14.5	(6.6)	7.5YR7/6（橙）	小破片	6	1号掘立柱建物、底部回転糸切り痕
30図2	190号ピット	かわらけ		10.2	2.4	5.2	10YR5/4（にぶい黄褐）	小破片	27	スス付着、底部回転糸切り痕
30図4	197号ピット	かわらけ		9.8	2.5	4.5	7.5YR6/6（橙）	完形	98	スス付着、底部回転糸切り痕
30図5	192号ピット	甲斐型	坏	(12.9)	3.5	4.4	5YR5/6（明赤褐）	2/3	61	7号・15号掘立柱建物、スス付着、墨書「泉」
30図6	201号ピット	中世陶磁器	甕	51.2	6.2		7.5YR5/1（灰）	小破片	92	常滑産
30図8	207号ピット	中世陶磁器				4.5(高台径)	5YR8/1（灰白）	小破片	21	1号掘立柱建物、志野釉、釉調2.5YR8/1（灰白）
30図9	231号ピット	灰釉陶器				8（高台径）	7.5YR7/1（灰白）	小破片	22	
30図10	215号ピット	かわらけ		(14)			5YR7/6（橙）	小破片	19	
31図1	遺構外	かわらけ	坏	13.4	2.9	6.6	7.5YR6/6（橙）	2/3	136	底部回転糸切り痕
31図2	一括	かわらけ		(8.0)	1.8	(5)	7.5YR7/4（にぶい橙）	小破片	14	底部回転糸切り痕
31図3	一括	かわらけ		(7.0)	1.6	(4)	5YR6/6（橙）	小破片	11	
31図4	一括	かわらけ		(6.4)	1.3	(3.4)	5YR6/6（橙）	小破片	10	
31図5	遺構外	かわらけ				(7.0)	7.5YR6/4（にぶい橙）	小破片	27	底部回転糸切り、底部穿孔
31図6	遺構外	かわらけ		6.5	1.4	3.8	7.5YR6/6（橙）	1/2	18	
31図7	一括	かわらけ		(9.0)	2.0	(5.8)	5YR6/6（橙）	小破片	15	スス付着、底部回転糸切り痕
31図8	一括	かわらけ		(8.0)	1.7	(4.8)	7.5YR（にぶい橙）	小破片	9	底部回転糸切り痕
31図9	遺構外	かわらけ		(12.0)	2.6	(5.4)	7.5YR6/4（にぶい黄褐）	小破片	19	
31図10	一括	かわらけ		(7.8)	1.7	(3.8)	7.5YR6/4（にぶい橙）	1/3	19	底部回転糸切り痕、スス付着
31図11	遺構外	中世陶磁器		(6.7)	1.4	(3.2)	7.5Y7/1（灰白）	1/3	10	瀬戸美濃産灰釉陶器
31図12	遺構外	中世陶磁器	甕	(26.0)			7.5YR6/1（褐灰）	小破片	74	常滑産
31図13	遺構外	中世陶磁器	甕	(51.2)			10YR6/2（灰黄褐）	小破片	125	常滑産
31図14	遺構外	陶器	内耳土器	(35.4)	11.9		10YR6/6（橙）	小破片	166	
31図15	遺構外		土製品	3.2	4.6	0.8	7.5YR5/4（にぶい褐）		29	内耳土器破片を加工した円盤状土製品
31図16	一括		土製品		3.4	0.6	5YR6/6（橙）		7	内耳土器破片を加工した円盤状土製品

第3表　石器・石製品一覧表

図版番号	遺構名	種別	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	石質	重量(g)	特徴など
11図3	4号配石	中世凹石	10.3	9.2	6.3	デイサイト	682	
13図5	8号配石	中世凹石	16	12.8	8.8	デイサイト	2300	
13図7	8号配石		(31.5)	31.5	14.2	デイサイト	8100	
14図2	9号配石	中世凹石	21	17.4	9.2	デイサイト	4300	
14図3	9号配石	中世凹石	13.3	11.8	9.1	デイサイト	1729	
15図1	9号配石		14	21	7	デイサイト	2800	
15図2	9号配石	中世凹石	10.35	10.25	5.95	デイサイト	600	
15図3	9号配石	中世凹石	8.15	7.9	5.35	デイサイト	372	
15図4	9号配石	中世凹石	13.35	9.6	6.55	デイサイト	1005	
15図5	9号配石				13.35	デイサイト		
15図6	9号配石	石臼	30.0	(30.0)		デイサイト	7500	
16図1	9号配石	石臼				デイサイト	3300	
16図2	9号配石	五輪塔（地輪）	13.8	16.2		デイサイト	4500	
16図3	10号配石		14.4	15.5	11.8	デイサイト	2600	
18図3	13号配石	中世凹石	12	12.3	7.2	デイサイト	1273	
18図4	13号配石	中世凹石	11.4	12.4	5	デイサイト	818	
18図5	13号配石	打製石斧	18.8	9.5	2.8	頁岩	392	主剥面にはっきりした原剥が見られるが、加工or自然かは不明
19図1	13号配石		12.7	16.3	9.4	デイサイト	1871	
19図2	13号配石		23.4	23.4	10.5	デイサイト	6700	
19図3	13号配石	五輪塔（空風輪）	22.1	14.1	14	デイサイト	4400	
19図4	13号配石	五輪塔（火輪）	9.5	19		デイサイト	3100	
19図5	13号配石	磨石	11.35	8.5	4.25	デイサイト	707	
24図1	7号土坑	中世凹石	9	8.2	6.1	デイサイト	575	
24図2	7号土坑		8.7	7.3	5.1	デイサイト	402	
25図1	11号土坑	中世凹石	8.5	7.6	5.5	デイサイト	452	
26図4	51号土坑	手水鉢	26.4	18.5	23.8	デイサイト	6400	最大幅：35
27図1	52号土坑	石臼	30.5	30.6	14.5	デイサイト		
28図3	65号土坑	中世凹石	9.8	10.2	6.9	デイサイト	925	裏面にも窪み有
28図4	65号土坑	中世凹石	16.6	15.7	10.4	デイサイト	3300	裏面にも窪み有
28図6	13号土坑	中世凹石	11.5	10.4	8.15	デイサイト	1185	
29図7	49号土坑	打製石斧	10.0(残存)	5.4	2	砂岩	161	
29図10	4号ピット	砥石	1.8	1.6	0.5	頁岩	2	
29図11	117号ピット	軽石	2.9	3.6	1.6	軽石	7	
30図7	201号ピット	火打ち石	5.3	2.95	1.65	石英	34	
31図17	遺構外	打製石斧	8.9	6.55	2	粘板岩	128	
32図1	遺構外	中世凹石	11	8.5	4.9	デイサイト	564	
32図2	15号配石	中世凹石	6.9	6.35	3.25	デイサイト	170	
32図3	遺構外		5.7	5.6	2.3	デイサイト	72	貫通していない孔あり。
32図4	遺構外	中世凹石	11.4	11.15	7.8	デイサイト	1081	
32図5		中世凹石	13.5	13.45	8.4	デイサイト	1651	
32図6	遺構外		7	6.3	4.1	デイサイト	247	
32図7	遺構外	砥石	6.3	3.1	1.6	珪質質凝灰岩	46	
32図8	一括	砥石				泥岩片	20	片岩系の石材
32図9	遺構外	砥石	3.5	3	1.2	珪質質凝灰岩	14	
32図10	遺構外	砥石			1.3	珪質質凝灰岩	41	
32図11	遺構外	硯				粘板岩	60	黒雲石製だが、雨畑石のような黒くない。赤地の縞文打等のような石
32図12	遺構外		3.95	2.8	1.55	泥岩？	19	
32図13	遺構外		2.6	2.8	1.9	デイサイト	16	
32図14	遺構外		3.4	3.05	0.8	輝岩	15	
32図15	遺構外	茶臼			(19.4)	デイサイト	43	

第4表　出土銭貨一覧表

11図4	11号配石	景徳元寶	北宋	1004	
24図3	9竪土坑	永樂通寶	明	1408	
25図2	22号土坑	永樂通寶	明	1408	
27図2	63号土坑	永樂通寶	明	1408	
29図3	33号土坑	元祐通寶	北宋	1086	
28図7	17号土坑	祥符元寶	北宋	1009	
28図9	23号土坑	元豊通寶	北宋	1078	
28図11	27号土坑	洪武通寶	明	1368	
28図13	29号上坑	洪武通寶	明	1368	
29図14	155号上坑	開元通寶	唐	845	
29図16	165号ピット	永樂通寶	明	1408	
30図3	198号ピット	熙寧元寶	北宋	1068	
32図16	遺構外	開元通寶	唐	845	
32図17	遺構外	天元通寶	日本	1360頃	鳥銭
32図18	遺構外	熙寧元寶	北宋	1068	
32図19	遺構外	政和通寶	北宋	1111	筮書
32図20	遺構外	大〇〇寶			
32図21	遺構外	開元通寶	唐	845	
32図22	遺構外	皇宋通寶	北宋	1038	
32図23	遺構外	開元通寶	唐	845	
32図24	遺構外	永樂通寶	明	1408	
32図25	一括	永樂通寶	明	1408	
32図26	遺構外	永樂通寶	明	1408	
32図27	1竪焼土	永樂通寶	明	1408	

第5表　土坑観察表

番号(DK)	位　　置	長(長軸)×短(短軸)×深さ.cm	埋　土　質	調　査　所　見　等
001	10号配石南1m	115×110×22	10YR2/3に10YR4/6が混じる。炭粒子が僅かに混じる。しまる細粒土。	4号土坑を切る。かわらけ破片7
002	8号配石南5m	75×82×18	10YR2/3に10YR4/6が混じる。炭粒子が僅かに混じる。ややしまる細粒土。	
003	8号配石南東3m	98×70×20	10YR2/3に10YR4/6と10YR3/4が混じる。焼土、炭粒子が僅かに混じる。しまる細粒土。	内耳土器破片1
004	10号配石南2m	90×100×50	10YR2/3に10YR4/6が混じる。炭粒子が僅かに混じる。しまる細粒土。	1号・9号土坑に切られる。平安土師器破片2、かわらけ11
005	9号配石南5m	86×96×16	10YR2/3に10YR4/4が混じる。炭粒子が僅かに混じる。しまる細粒土。	平安土師器破片1、かわらけ破片5、縄文石鏃1
006	9号配石南2m	85×90×16	10YR2/3に10YR3/4が混じる。しまる細粒土。	
007	1号溝西端北西2m	120×115×61	10YR2/3に10YR4/4が混じる。炭粒子が僅かに混じる。ややしまる細粒土。	第24図。22号土坑を切る。85号ピット・110号ピットに切られる。くぼみがある石器2
008				欠番。180号ピットに改称。
009	10号配石南2m	70×60×35	10YR2/3に10YR4/6が混じる。ややしまる。	第24図。4号土坑を切る。多数の礫あり。平安土師器破片1、かわらけ破片2、内耳土器破片2、永楽通宝1
010	4・17号配石内2m	110×110×30	10YR2/3に10YR3/4が混じる。炭粒子が僅かに混じる。ややしまる細粒土。	
011	8号配石東1m	130×90×30	10YR2/3に10YR3/4が混じる。ややしまる細粒土。	第25図。くぼみがある石器1
012	1号溝西端北西2m	110×90×38	10YR2/3に10YR3/4が混じる。しまる細粒土。	7号土坑に切られる。
013	8号配石南端南1m	80×80×10	10YR2/3に10YR4/6が混じる。ややしまる。	第28図。くぼみがある石器1
014A	9号配石東に隣接	170×120×20	10YR2/3に10YR3/4が混じる。ややしまる。	14B号土坑に切られる。平安土師器破片1、かわらけ破片11、内耳土器破片3、くぼみがある石器1
014B	9号配石東に隣接			黒曜石破片1
015	2号溝北端東1m	80×90×46	10YR2/3に10YR4/6が混じる。炭粒子が僅かに混じる。ややしまる。	かわらけ破片2、内耳土器破片1、中世陶磁器破片1
016	8号配石南東3m	80×110×28	10YR2/3に10YR4/6が混じる。ややしまる。	
017	9号配石南端南東1m	115×130×22	10YR2/3に10YR4/6が混じる。炭粒子が僅かに混じる。ややしまる。	第28図。18号土坑を切る。かわらけ破片2、祥符元宝1、判読不可銭1、黒曜石破片1
018	9号配石南端南東2m	80×80×22	10YR2/3に10YR4/6が混じる。ややしまる。	3号・17号土坑に切られる。かわらけ破片1
019	9号配石中央東1m	115×125×14	10YR2/3に10YR4/6が混じる。炭粒子が僅かに混じる。ややしまる。	14号土坑を切る。土師器破片1、かわらけ破片1、内耳土器破片1
020	8号配石南端西2m	65×65×30	10YR2/3に10YR4/6が混じる。ややしまる。	127号ピットに切られる。平安土師器破片2、かわらけ破片1、判読不可銭1
021	3号配石西2m	80×80×30	10YR2/3に10YR4/6が混じる。ややしまる。	63号土坑に切られる。かわらけ破片1、内耳土器破片2
022	3号配石西1m	80×80×30	10YR2/3に10YR4/6が混じる。ややしまる。	第25図。石列を伴う。かわらけ破片1、内耳土器破片2、永楽通宝1
023	3号配石西1m	70×70×40	10YR2/3に10YR4/6が混じる。ややしまる。	第28図。かわらけ破片5、中世陶磁器破片3、元豊通寳1
024	13・14号配石南西4m	30×30×32	10YR2/1(黒色っぽい)に10YR4/6が混じる。焼土、炭粒子が僅かに混じる。ややしまる。	45号土坑に切られる。
025	9号配石北端北3m	106×108×15	10YR2/2に10YR3/5が混じる。焼土、炭粒子が僅かに混じる。ややしまる細粒土。	41号土坑に切られる。26号土坑を切る。かわらけ破片1、内耳土器破片1
026	9号配石北端北2m	120×120×15	10YR2/2に10YR4/4が混じる。焼土、炭粒子が僅かに混じる。細粒土。	第29図。25号土坑に切られる。平安土師器破片33、かわらけ破片1、判読不可銭1
027	9号配石北端に隣接	130×130×20	10YR2/2に10YR4/4が混じる。焼土、炭粒子が僅かに混じる。細粒土。	第28図。9号配石下で検出。平安土師器破片5、かわらけ破片1、洪武通寳1
028	9号配石北端北西2m	94×90×20	10YR3/2に10YR4/4が混じる。炭粒子が僅かに混じる。細粒土。	中世陶磁器破片1、判読不可銭1
029	9号配石北端北西2m	70×63×30	10YR2/2に10YR5/6が混じる。焼土、炭粒子が僅かに混じる。細粒土。	第28図。かわらけ破片3、洪武通寳1
030	9号配石北端西3m	110×50×20	10YR2/2に10YR4/4が混じる。焼土、炭粒子が僅かに混じる。細粒土。	第29図。31号土坑を切る。平安土師器破片9、緑釉陶器破片1、かわらけ破片18、内耳土器破片4、青磁破片1、黒曜石破片1、礫（つぶて）状の石器1
031	9号配石北端西2m	不明×20	10YR2/2に10YR4/4,10YR3/3が混じる。炭粒子が僅かに混じる。細粒土。	30号土坑に切られる。32号土坑を切る。
032	9号配石北端西2m	60×60×30	10YR2/2に10YR4/6が混じる。炭粒子が僅かに混じる。細粒土。	31号土坑に切られる。
033	9号配石北端西1m	95×95×20	10YR2/2。焼土、炭粒子が僅かに混じる。細粒土。	第29図。平安土師器破片1、かわらけ破片2、内耳土器破片7、元祐通寳1、礫（つぶて）状石器1、鉄製品破片2
034	9号配石北端北西1m	95×95×24	10YR2/2に10YR4/4が混じる。炭粒子が僅かに混じる。細粒土。	35号土坑を切る。かわらけ破片1、内耳土器破片1
035	9号配石北端西に隣接	不明×20	10YR2/2。炭粒子が僅かに混じる。細粒土。	34号土坑に切られる。
036	9号配石北端西2m	100×98×25	10YR2/3に10YR5/6が混じる。焼土、炭粒子が僅かに混じる。細粒土。	第29図。37号土坑を切る。かわらけ破片3
037	9号配石北端西に隣接	不明×25	10YR3/1,10YR3/4に10YR5/6がブロック状に少々混じる。焼土、炭粒子が僅かに混じる。細粒土。	平安土師器破片1、かわらけ破片2
038	9号配石北端東に隣接	100×100×30	10YR3/3に10YR5/6が混じる。細粒土。	9号配石下で検出。27号土坑に切られる。平安土師器破片2、かわらけ破片1、青磁破片2
039	9号配石北端北東2m	130×130×40	10YR2/2に10YR4/3が混じる。焼土、炭粒子が僅かに混じる。細粒土。	1号住居を切る。平安土師器破片7、鉄製品破片1
040	10号配石南西1m	110×110×30	10YR3/2に10YR4/3が混じる。細粒土。	1号住居を切る。
041	10号配石西1m	128×100×22	10YR3/2に10YR4/3が混じる。焼土、炭粒子が混じる。細粒土。	第26図。土坑上面の配石を11号配石と命名したが、41号土坑に改称。25号土坑と39号土坑を切る。平安土師器破片2、かわらけ破片83、内耳土器破片16、中世陶磁器破片2、青磁破片1
042				欠番
043	10号配石南1m	88×80×20	10YR2/2,10YR4/2に10YR5/4が混じる。炭粒子が僅かに混じる。かたくしまる細粒土。	
044	9号配石北端東1m	50×50×25	10YR4/4に10YR4/3が混じる。しまる細粒土。	平安土師器破片1、かわらけ破片4
045	13・14号配石南3m	100×120×74	10YR3/2に10YR5/6が混じる。炭粒子が僅かに混じる。しまる細粒土。	第29図。平安土師器破片9、灰釉陶器破片1、緑釉陶器破片1、かわらけ1個体、破片2
046	8号配石北端北1m	120×120×10	10YR3/2。しまる細粒土。	平安土師器破片3、かわらけ破片2、内耳土器破片1
047	9号配石南端南1m	45×40×35	10YR2/3に10YR4/6が混じる。炭粒子が僅かに混じる。ややしまる。	
048	9号配石南端東に隣接	70×60×45	10YR2/3に10YR4/6が混じる。ややしまる。	17号土坑・195号ピットに切られる。
049	8号配石北端北西1m	165×146×20	10YR3/2。しまる細粒土。	第29図。50号土坑を切る。かわらけ破片5、打製石斧1
050	8号配石北端北西1m	130×130×20	10YR3/2に10YR4/6が混じる。炭粒子が僅かに混じる。しまる細粒土。	かわらけ破片4、内耳土器破片2
051	13・14号配石東1m	119×？×20	10YR3/3に10YR4/3が混じる。ややしまる細粒土。	第26図。土坑底に地山礫があり、そのうえ石製鉢半個体が逆さに置かれていた。平安土師器破片3、かわらけ破片3、内耳土器破片4、青色ガラス玉1
052	13・14号配石南1m	50×38×46	10YR3/2に10YR5/6が混じる。炭粒子が僅かに混じる。ややしまる。	第27図。内耳土器破片2、石臼1
053	13・14号配石北東2m	100×80×40	10YR3/2に10YR4/6が混じる。炭粒子が僅かに混じる。しまる細粒土。	第29図。2号溝を切る。かわらけ破片2、内耳土器破片1
054	2号溝中央西1m	92×90×35	10YR3/2に10YR4/6が混じる。しまる細粒土。	PT211に切られる。
055	2号溝中央西2m	105×120×40	10YR3/2に10YR4/6が混じる。ややしまる細粒土。	重複するピットに切られる。
056	13・14号配石南2m	160×150×60	10YR3/2に10YR4/6が混じる。焼土、炭粒子が僅かに混じる。ややしまる細粒土。	平安土師器破片1、内耳土器破片2
057	13・14号配石南東1m	100×120×25	10YR3/2に10YR4/6が混じる。しまる細粒土。	土坑上面に配石あり。
058	2号溝北端西1m	100×90×40	10YR3/2。細粒土。	第29図。内耳土器破片1、判読不可銭1
059	13・14号配石東1m	160×150×65	10YR3/2に10YR4/6が混じる。しまる細粒土。	57号土坑に切られる。礫（つぶて）状石器1
060	3号配石内	90×80×20	10YR3/2に10YR4/6が混じる。炭粒子が僅かに混じる。しまる細粒土。	3号配石を切る。平安土師器破片1
061	3号配石内	90×70×10	10YR2/2に10YR4/6が混じる。炭粒子が僅かに混じる。ややしまる細粒土。	3号配石との新旧不明。平安灰釉陶器破片1
062	1号溝東端東に隣接	100×100×32	10YR3/2。しまる細粒土。	
063	3号配石西2m	104×92×25	10YR3/2。しまる細粒土。	第27図。土坑上面の配石を7号配石と命名したが、63号土坑に改称。永楽通宝1
064				欠番
065	9号配石南端西1m	170×？×30	10YR3/2に10YR4/6が混じる。しまる細粒土。	第27・28図。土坑上面の配石を12号配石と命名したが65号土坑に改称。南半分は地境で削平。平安土師器破片7、かわらけ破片1、内耳土器破片1、中世陶磁器破片1、近世陶磁器破片1、くぼみがある石器1、黒曜石破片1

第６表　ピット観察表

番号(PT)	位置	径(長軸×短軸)×深さ、cm	堆土質	調査所見等
001	1号溝東端東1m	30×30×22	10YR3/3、しまる	石あり
002	1号溝東端東1m	33×30×26	10YR3/2、しまる	石あり
003	1号溝東端北東2m	33×28×33	10YR3/2、しまる	石あり
004	1号溝東端北東3m	24×26×27	10YR2/2ややしまる	かわらけ破片1、器石1、第29図
005	1号溝東端北2.5m	45×35×36	10YR2/2ややしまる	13号掘立柱建物。石あり。かわらけ破片2
006	1号溝東端北2.5m	28×25×40	10YR3/2、しまる	12号掘立柱建物。石あり
007	8号配石南端南西3m	25×25×40	10YR2/2ややしまる	3号掘立柱建物。底に石あり。かわらけ破片1
008	8号配石南端南西3m	25×25×18	10YR2/2しまる	9号ピットに切られる
009	8号配石南端南西3m	35×30×19	10YR2/2しまる	16号掘立柱建物。10号ピットに切られる
010	8号配石南端南西2.5m	35×338×18	10YR2/2しまる	9号ピットを切る。かわらけ破片1
011	8号配石南端南西2.5m	34×34×10	10YR2/2しまる	10号ピット、12号ピットを切る。内耳土器破片1
012	8号配石南端南西2.5m	30×32×6	10YR2/2しまる	11号ピットに切られる
013	1号溝東端北3m	27×27×41	10YR2/2しまる	16号掘立柱建物。底に石あり
014A	1号溝東端北西2m	25×29×40	10YR3/2、しまる	底に石あり
015	1号溝東端北西3m	40×40×23	10YR2/2ややしまる	かわらけ破片1
016	1号溝東端北西3m	30×30×19	10YR2/2ややしまる	15号ピットを切る。内耳1器破片1
017	1号溝東端北西3m	23×24×12	10YR2/2ややしまる	かわらけ1個体、第28図
018	1号溝東端北西3m	36×38×30	10YR2/2しまりなし	11号掘立柱建物。石あり。内耳土器破片1
019	1号溝東端北西4m	32×35×29	10YR2/1に10YR3/4が混じる、堆土僅かに混じる、ややしまる	16号柵列柱建物
020	1号溝東端北西4m	30×24×38	10YR2/2ややしまる	12号掘立柱建物。平安土師器破片1
021	1号溝東端北西4m	23×30×35	10YR2/2ややしまる	
022	1号溝東端北西3m	16×18×23	10YR2/2ややしまる	3号掘立柱建物
023	1号溝東端北西2.5m	50×40×36	10YR2/2ややしまる	11・13号掘立柱建物。石あり。かわらけ破片3、内耳土器破片1
024	1号溝西端北東1m	50×50×35	10YR2/2ややしまる	石あり
025	1号溝東端北西3m	24×20×23	10YR3/2、しまる	
026	9号配石南端南3m	30×30×29	10YR3/2、しまる	
027	9号配石南端南2.5m	22×25×33	10YR3/2、しまる	
028	9号配石南端南2.5m	25×25×41	10YR3/2に10YR3/4が混じる、堆土僅かに混じる、しまる	7号掘立柱建物
029	9号配石南端南2.5m	24×26×41	10YR3/2、しまる	3号掘立柱建物。石あり
030	9号配石南端南2.5m	27×33×46	10YR3/2、しまる	16号掘立柱建物。20号ピットを切る
031	9号配石南端南2.5m	30×30×31	10YR2/2しまる	2号掘立柱建物。石あり
032	9号配石南端南3m	25×25×20	10YR2/2しまる	
033	9号配石南端南3m	16×18×12	10YR3/2、しまる	
034	9号配石南端南3m	36×39×26	10YR2/2ややしまる	13号掘立柱建物
035	1号2号溝交差点北東2.5m	20×24×13	10YR2/2ややしまる	
036	1号2号溝交差点北東2.5m	18×18×11	10YR2/2しまりなし	2号掘立柱建物
037	1号2号溝交差点北東2m	12×13×5	10YR2/2しまる	
038	1号2号溝交差点北東2m	20×20×32	10YR2/2ややしまる	37号ピットを切る
039	1号2号溝交差点北東1m	35×28×32	10YR2/2しまる、堆土がやや混じる	12号掘立柱建物
040	1号2号溝交差点北東2m	35×38×30	10YR2/2しまる	石あり
041	1号2号溝交差点北東2m	18×21×11	10YR2/2黒くしまる	
042	1号2号溝交差点北東2m	38×33×34	10YR2/2しまる	16号掘立柱建物。石あり
043	9号配石南端南西2m	35×30×25	10YR2/2しまる	7号掘立柱建物。44号ピットを切る
044	9号配石南端南西2m	45×38×26	10YR2/2しまる	7・16号掘立柱建物。石あり
045	9号配石南端南西2m	40×40×25	10YR2/2しまる	
046	9号配石南端南西2m	25×25×13	10YR2/2しまる	2号掘立柱建物。45号ピットを切る

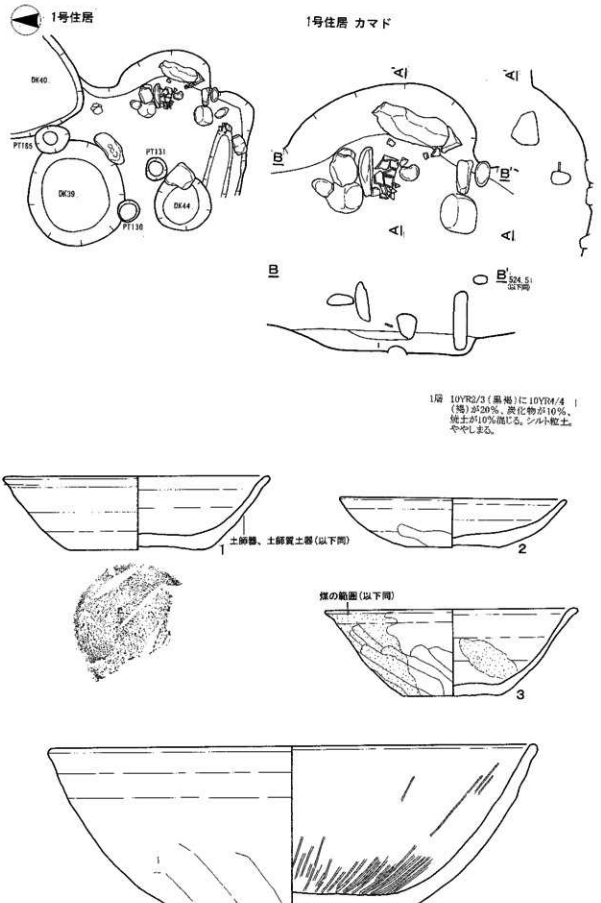
番号(PT)	位置	径(長軸×短軸)×深さ、cm	堆土質	備考所見等
047	9号配石南端南西2.5m	29×28×20	10YR2/2黒くしまる	2号掘立柱建物。石あり
048	1号2号溝交差点東1m	34×34×21	10YR2/2しまりなし	15号掘立柱建物。石あり
049	9号配石南端南2m	24×30×30	10YR3/2、しまる	柱穴あり
050	1号2号溝交差点東2m	24×24×21	10YR2/2しまりなし	石あり
051	1号溝中央南に隣接	31×31×25	10YR2/2しまる	底に石あり
052	1号溝中央南に隣接	49×42×23	10YR2/2しまる	17号掘立柱建物
053	1号2号溝交差点東2.5m	25×25×21	10YR2/2しまる	
054	1号溝東端南に隣接	45×46×16	10YR2/2しまる	12号掘立柱建物。石あり
055	1号溝東端南に隣接	36×36×13	10YR2/2しまる	
056	1号溝東端に隣接	42×42×23	10YR2/2しまる	11・12号掘立柱建物。底に石あり。62号土坑に切られる
057	2号亀石東0.5m	30×35×57	10YR2/2四くしまる	12号掘り柱建物。底に石あり
058	2号亀石北に隣接	42×50×13	10YR2/2非常に固くしまる	11号掘立柱建物
059	1号2号溝交差点南西に隣接	30×30×28	10YR2/2固くしまる	
060	1号2号溝交差点西1m	28×30×9	10YR2/2ややしまる	掘さ3cmまで炭化物が多い
061	1号2号溝交差点西2m	26×26×31	10YR2/2ややしまる	
062	1号2号溝交差点南西2m	21×23×7	10YR3/2、固くしまる	
063	1号2号溝交差点南西3m	27×32×24	10YR2/2固くしまる	64号ピットを切る
064	1号2号溝交差点南西3m	28×28×6	10YR2/2固くしまる	16号掘立柱建物
065	1号2号溝交差点南西3m	21×21×11	10YR2/2 炭化物が混じる、しまりなし	15号掘立柱建物。内耳土器破片1
066	1号溝西端から東2m	24×24×44	10YR2/2固くしまる	石あり
067	1号2号溝交差点北西2m	25×25×30	10YR3/2、ややしまる	石あり
068	1号2号溝交差点北西2m	41×46×20	10YR3/2、固くしまる	
069	1号2号溝交差点北西3m1号	28×30×21	10YR3/2、しまる	10・14・17号掘立柱建物
070	溝西端東2m	32×34×44	10YR3/2、ややしまる	15号掘り柱建物。石あり
071	1号2号溝交差点北西3m	27×30×33	10YR2/2炭化物が混じる、しまりなし	10号掘立柱建物。石あり
072	1号2号溝交差点北西3m	32×32×20	10YR2/2ややしまる	
073	1号2号溝交差点北西3m	36×40×29	10YR2/2ややしまる	5号掘立柱建物。石あり。かわらけ破片2
074	1号2号溝交差点北西3m	24×24×24	10YR3/2、ややしまる、炭化物が5%混じる	9・15号掘立柱建物
075	1号2号溝交差点北西3m	27×29×34	10YR3/2、しまる	6・14号掘立柱建物。平安上師器破片1
076	1号溝西端北東2.5m	33×41×10	10YR3/2、ややしまる	8号掘立柱建物
077	1号溝西端北東2.5m	19×20×40	10YR3/2、ややしまる	
078	13・14号配石南3m	49×49×11	10YR3/3、ややしまる	石あり
079	1号溝西端北東2m	35×35×30	10YR2/2ややしまる	10・13号掘立柱建物。石あり
080	1号溝西端北東3m	28×43×47	10YR2/2ややしまる	石あり
081	1号溝西端北東2m	23×23×50	10YR2/2しまりなし	
082	1号溝西端北東3m	22×25×33	10YR2/2ややしまる	17号掘立柱建物
083	1号溝西端北3m	30×29×43	10YR2/2ややしまる	10号掘立柱建物。石あり
084	1号溝西端北2m	26×27×43	10YR2/2ややしまる	10号掘立柱建物。内耳土器破片1
085	1号溝西端北2m	27×27×49	10YR2/2ややしまる	内耳土器破片2
086	1号溝西端北1m	29×33×43	10YR2/2ややしまる	
087	1号溝西端北1m	21×22×41	10YR2/2しまりなし	かわらけ破片1
088	1号溝西端北西2m	30×34×15	10YR3/2、ややしまる	かわらけ破片1
089				欠番。12号土坑に改称。かわらけ破片3、内耳土器破片4
090	1号溝西端北西3m	28×30×32	10YR3/2、しまる	5号掘立柱建物。石あり
091	1号溝西端北西3m	30×33×29	10YR2/2しまりなし	8号掘立柱建物。石あり
092	1号溝西端北西3m	34×38×22	10YR2/2しまりなし	17号掘立柱建物

番号(PIT)	位置	径(長軸×短軸)×深さ、cm	堆土質	調査所見等
093	1号溝西端北西2m	30×30×15	10YR2/2ややしまる。炭化物が混じる	14号掘立柱建物
094				欠番
095	1号溝西端に隣接	34×34×45	10YR2/2しまりなし	10号掘立柱建物。石あり。かわらけ破片1
096	1号溝西端東1m	48×42×28	10YR3/2、しまる	10-17号掘立柱建物。20cm径の杜撰あり
097	1号溝西端南1m	30×36×13	10YR2/2しまる	かわらけ破片1
098	1号溝西端から東1m	20×22×17	10YR2/2しまる	17号掘立柱建物。石あり
099	1号溝西端から東1m	22×22×24	10YR2/2ややしまる	5-14号掘立柱建物。石あり
100	8号配石南端南3m	35×38×36	10YR2/2ややしまる	7号掘立柱建物。かわらけ破片1、内耳土器破片1
101	1号溝西端北1m	53×50×40	10YR2/2ややしまる	石あり
102	2号配石東0.5m	35×27×15	10YR4/6固くしまる	
103	2号配石東1m	30×27×7	10YR4/6固くしまる	かわらけ破片1、内耳土器破片1
104	2号配石東1m	50×40×8	7.5YR4/4固くしまる	103号ピットを切る
105	2号配石東1m	48×40×6	7.5YR4/4固くしまる	石あり
106	1号溝西端北西2m	33×23×12	10YR2/3ややしまる。炭化物が僅じる	
107	3号配石東6m	29×34×20	7.5YR4/4ややしまる	
108	2号配石東4m	23×18×20	7.5YR4/4ややしまる	
109	3号配石東4m	35×25×17	7.5YR4/4に7.5YR3/4が混じる。ややしまる	
110	1号溝西端北西2m	25×25×24	10YR2/2ややしまる	17号掘立柱建物。平安土師器破片1
111	1号溝東端北3m	15×16×23	10YR2/2しまる	
112	1号溝東端北3m	19×16×25	10YR2/2しまる	内耳土器破片1
113	10号配石南2m	25×25×21	10YR2/3に10YR4/6が混じる。ややしまる	1号土坑に切られる
114	1号2号溝交差点東2.5m	38×38×22	10YR2/2ややしまる	11号掘立柱建物
115	8号配石中央西に隣接	35×35×47	10YR2/2ややしまる	4号掘立柱建物
116	8号配石南端西に隣接	55×45×48	10YR2/2ややしまる	
117	8号配石南端東に隣接	30×35×33	10YR2/2しまる	くぼみのあるお器1、鍛製品破片1、第29図
118	8号配石南端南0.5m	23×23×13	10YR2/2ややしまる	
119	8号配石南端南西1m	17×20×17	10YR2/2ややしまる	
120	8号配石南端西1m	20×20×21	10YR2/2ややしまる	
121	8号配石南端北西2m	36×36×40	10YR2/2ややしまる	
122	8号配石南端北西2m	30×30×32	10YR2/2ややしまる	
123	8号配石南端南東1m	40×32×10	10YR2/2しまる	7号掘立柱建物
124	9号配石北端南東2m	31×35×34	10YR2/2ややしまる	
125	9号配石北端南東2m	31×31×41	10YR2/2ややしまる	
126	8号配石南端西1m	34×18×23	10YR2/2ややしまる	3号掘立柱建物
127	9号配石南端北東2m	41×33×32	10YR2/2ややしまる	4-7号掘立柱建物
128	8号配石南端南東2m	22×24×26	10YR2/2ややしまる	
129				欠番。16号土坑に改称
130	9号配石北端北東2m	21×21×27	10YR2/3粘土が僅かに混じる。ややしまる	
131	10号配石南西3m	21×19×34	10YR2/2ややしまる	1号掘立柱建物
132	13-14号配石南2m	26×26×10	10YR3/2、ややしまる	
133	13-14号配石南2m	20×18×11	10YR3/2、ややしまる	
134	13-14号配石南3m	15×25×51	10YR2/2ややしまる	
135	2号溝中央西2.5m	24×24×40	10YR2/2ややしまる	
136	2号溝中央西2.5m	25×25×40	10YR2/2ややしまる	14号掘立柱建物
137	2号溝中央西3m	24×24×41	10YR3/2、ややしまる	
138	13-14号配石南3m	30×30×55	10YR2/2ややしまる	平安土師器破片1

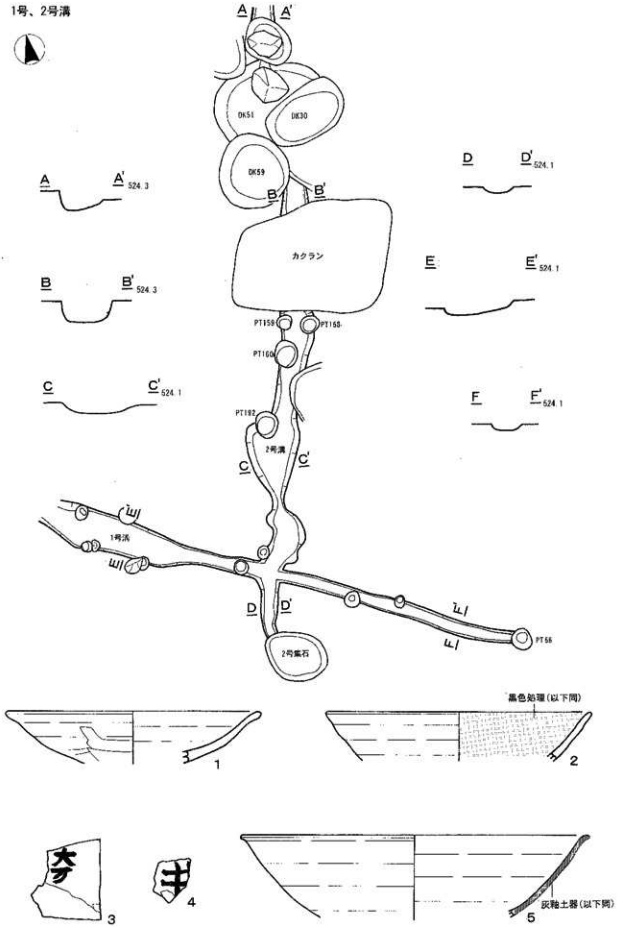
番号(PT)	位置	径(長軸×短軸)×深さ、cm	埋土質	備考所見等
139	13・14号配石南3m	36×32×50	10YR3/2炭が僅かに混じる。やや しまる	
140	13・14号配石南3m	30×25×40	10YR2/2やや しまる	かわら汁破片1
141	13・14号配石南3m	38×38×40	10YR2/2やや しまる	8号柵立柱建物。かわら汁破片1、第29図
142	13・14号配石南1m	46×42×63	10YR2/2炭が僅かに混じる。やや しまる	8号柵立柱建物。右あり。かわら汁破片1
143	13・14号配石南3m	35×25×59	10YR2/2やや しまる	6号掘立柱建物。右あり。かわら汁破片1
144	13・14号配石南2.5m	30×28×54	10YR2/2やや しまる	
145	13・14号配石南2m	32×26×35	10YR2/2やや しまる	8号掘立柱建物
146	13・14号配石南2m	36×30×16	10YR2/2やや しまる	3号掘立柱建物。かわら汁破片1、第29図
147	13・14号配石南西2.5m	28×23×45	10YR2/2やや しまる	かわら汁破片1
148	13・14号配石南西2.5m	33×27×38	10YR2/2やや しまる	8号掘立柱建物
149	13・14号配石南西3m	25×29×51	10YR2/2やや しまる	
150	13・14号配石南西3m	33×35×40	10YR2/2やや しまる	
151	13・14号配石南西3m	25×25×26	10YR2/2やや しまる	3号掘立柱建物
152	13・14号配石南西3m	46×32×12	10YR2/2やや しまる	14号掘立柱建物
153	13・14号配石南西2.5m	27×24×17	10YR2/2やや しまる	17号掘立柱建物
154	13・14号配石南西2.5m	40×50×26	10YR2/2やや しまる	石あり
155	13・14号配石南西2m	57×45×55	10YR2/2やや しまる	かわら汁破片5、陶先通貨1、第29図
156	13・14号配石南西2m	39×30×20		
157	13・14号配石南西1m	39×30×45	10YR2/2やや しまる	かわら汁破片1
158	2号溝中央東に隣接	35×34×30	10YR3/2、やや しまる	かわら汁破片2
159	2号溝中央西に隣接	34×29×27	10YR2/2やや しまる	6・7号掘立柱建物
160	2号溝中央西に隣接	50×45×25	10YR2/2炭が僅かに混じる。やや しまる	かわら汁破片2
161	2号溝中央東0.5m	35×32×45	10YR3/2、しまる	2号掘立柱建物
162	2号溝中央西に隣接	30×39×53	10YR2/2やや しまる	2号掘立柱建物
163	9号配石南幅南東1m	24×24×24	10YR2/2やや しまる	
164	9号配石南幅西2m	26×26×37	10YR3/2、やや しまる	
165	9号配石南幅西2m	24×24×33	10YR3/2、炭が僅かに混じる。やや しまる	かわら汁破片1、永楽通貨1、第29図
166	2号溝中央西に隣接	54×34×40	10YR3/2、やや しまる	石あり
167	13・14号配石南2.5m	50×48×60	10YR2/2やや しまる	石あり、かわら汁破片3
168	13・14号配石南2.5m	32×29×30	10YR2/2やや しまる	9・14号掘立柱建物。石あり
169	8号配石南3m	40×40×40	10YR3/2、やや しまる	かわら汁破片2
170	9号配石北幅北東4m	50×30×35	10YR2/2やや しまる	かわら汁破片1、内耳土器破片1、青磁破片1、鉢釉破片1、第29図
171	9号配石北幅北西4m	53×35×30	10YR2/2やや しまる	
172	9号配石南幅北3m	40×38×10	10YR2/2しまる	1号掘立柱建物。内耳土器破片1
173	9号配石南幅北1m	40×33×30	10YR3/2、灰焼土が僅かに混じる。やや しまる	9号配石に切られる。石あり
174	9号配石中央南1m	47×37×27	10YR3/2、炭焼土が僅かに混じる。やや しまる	4号掘立柱建物。9号配石に切られる。かわら汁破片1
175	2号溝中央西3m	38×26×48	10YR2/2炭が僅かに混じる。やや しまる	石あり
176	8号配石南幅西2m	30×30×40	10YR2/2やや しまる	
177	9号配石中央東に隣接	48×48×43	10YR2/2やや しまる	かわら汁破片1、瓦質土器破片1
178	9号配石中央南東2m	50×50×23	10YR2/2炭が僅かに混じる。やや しまる	4号掘立柱建物。内耳土器破片2
179	8号配石北幅東1m	40×40×30	10YR2/2やや しまる	かわら汁破片2、内耳土器破片1
180	13・14号配石西4m	28×28×33	10YR3/2、やや しまる	8号土坑から改称
181	2号溝中央西1m	24×22×20	10YR3/2、やや しまる	石あり
182	9号配石北幅南東3m	38×40×15	10YR2/2炭焼土が僅かに混じる。やや しまる	4号掘立柱建物
183	9号配石南幅東2m	41×40×25	10YR2/2に10YR5/6が混じる。炭が僅かに混じる。やや しまる	かわら汁破片2
184	8号配石南幅東西2m	44×45×36	10YR3/2、やや しまる鍋経土	かわら汁破片1

番号(PT)	位置	径(長軸×短軸)×深さ、cm	埋土質	調査所見等
185	10号配石南西2m	28×30×20	10YR3/2、炭焼土が僅かに混じる。ややしまる	1号掘立柱建物
186				欠番
187	13・14号配石南2m	40×33×56	10YR3/2、ややしまる	17号掘立柱建物。かわらけ破片1
188	13・14号配石南2m	50×40×60	10YR4/2ややしまる	6号掘立柱建物
189	9号配石北端東2m	27×25×34	10YR4/2ややしまる	1号掘立柱建物。かわらけ破片2、第30図
190	9号配石北端南東2m	35×35×25	10YR3/2ややしまる	かわらけ破片1、内耳土器破片1、第30図
191	8号配石北端西2m	26×27×11	10YR3/2に10YR5/6が混じる。炭焼土が僅かに混じる。ややしまる	
192	2号溝中央西に隣接	47×43×21	10YR3/2に10YR5/6が混じる。ややしまる	7・15号掘立柱建物。平安土師器1個体、第30図
193	9号配石南端北東1m	33×33×43	10YR2/2に10YR5/6が混じる。ややしまる	3号掘立柱建物。かわらけ破片2
194	9号配石南端東1m	30×40×30	10YR3/1炭が僅かに混じる。ややしまる	195号ピットを切る。かわらけ破片1
195	9号配石南端東1m	35×35×30	10YR3/1ややしまる	
196	9号配石南端南西1m	35×35×45	10YR3/2に10YR4/4が混じるしまる	かわらけ破片1
197	13・14号配石北東1m	50×55×25	10YR2/2に10YR5/6が混じる。炭焼土が僅かに混じる。ややしまる	198号ピットに切られる。かわらけ1個体、第30図
198	13・14号配石北東1m	50×50×20	10YR3/2、炭焼土が僅かに混じる。ややしまる	平安灰釉陶器破片1、内耳土器破片1、□元□寳1、銅製品破片1
199	13・14号配石北東1m	32×33×30	10YR2/2に10YR3/1が混じる。炭が僅かに混じる。ややしまる	
200	13・14号配石北東2m	25×25×30	10YR3/2に10YR5/6が混じる。炭が僅かに混じる。ややしまる	小石2つ
201	13・14号配石北東2m	50×50×35	10YR3/2に10YR5/6が混じる。炭が僅かに混じる。ややしまる	平安須恵器破片1、かわらけ破片1、内耳土器破片1、中世陶磁破片1、火打石1、第30図
202	13・14号配石東端に隣接	28×28×20	10YR3/2に10YR5/6が混じる。炭が僅かに混じる。ややしまる	
203	8号配石北端北に隣接	36×37×6	10YR3/2に10YR5/6が混じる。ややしまる	
204	2号溝撹乱北に隣接	20×18×20	10YR3/2に10YR4/4が混じる。炭焼土が僅かに混じる。しまる	かわらけ破片2
205	9号配石北端北1m	56×33×26	10YR3/2に10YR4/4が混じる。炭が僅かに混じる。ややしまる	1号掘立柱建物
206	8号配石北端西0.5m	30×38×40	10YR3/2炭焼土が僅かに混じる。ややしまる	石あり。かわらけ破片1
207	8号配石北端西1m	34×30×14	10YR3/2しまる	1号掘立柱建物。石あり。近世陶磁破片1、第30図
208	9号配石南端南東1m	30×30×33	10YR3/2ややしまる	3号掘立柱建物
209	2号溝中央東0.5m	25×25×26	10YR3/2炭が僅かに混じる。ややしまる	平安土師器破片1、かわらけ破片1
210	2号溝中央東0.5m	21×20×22	10YR3/2炭が僅かに混じる。ややしまる	
211	2号溝中央西2m	34×34×23	10YR3/2炭が僅かに混じる。ややしまる	6号掘立柱建物。54号土坑を切る
212	2号溝中央西1m	45×38×40	10YR3/2炭が僅かに混じる。しまる	213号ピットを切る
213	2号溝中央西1m	32×36×35	10YR3/2炭が僅かに混じる。しまる	214号ピットを切る。かわらけ破片4
214	2号溝中央西1m	33×34×30	10YR3/2炭が僅かに混じる。ややしまる	
215	13・14号配石南東2m	50×36×20	10YR3/2炭が僅かに混じる。ややしまる	56号土坑を切る。平安土師器破片1、かわらけ破片5、内耳土器破片2、第30図
216	9号配石南端南に隣接	24×29×35	10YR3/2に10YR5/6が混じる。焼土が僅かに混じる。ややしまる	
217	1号溝東端北東4m	33×33×15	10YR3/2、ややしまる	
218	13・14号配石南東2m	34×33×25	10YR3/2、ややしまる	6号掘立柱建物
219	9号配石北端北西4m	28×26×25	10YR3/2、ややしまる	
220	9号配石北端北東2m	53×53×30	10YR3/2、焼土が僅かに混じる。ややしまる	
221	1号2号溝交差点西に隣接	26×26×23	10YR2/2しまる	
222	13・14号配石南東2m	24×24×45	10YR3/2	56号土坑を切る
223	13・14号配石南西3m	32×30×15	10YR3/2	
224	2号集石西1m	50×52×23	10YR3/2	11号掘立柱建物
225	13・14号配石南東2m	45×40×40	10YR3/2	
226	9号配石南端南西2m	40×42×22	10YR3/2	2号掘立柱建物
227	1号溝東端南1m	50×50×20	10YR3/2	
228	1号溝東端南東0.5m	28×28×5	10YR3/2	
229	9号配石中央北0.5m	45×45×24	10YR3/2	4号掘立柱建物。中世陶磁破片1

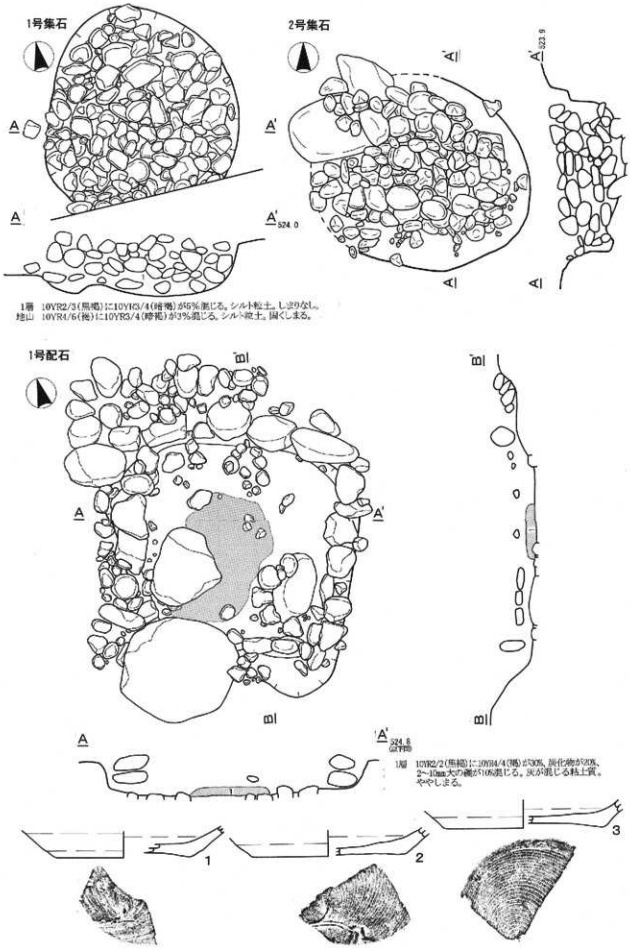
番号(PT)	位置	径(長軸×短軸)×深さ、cm	堆土質	備考所見等
230	8号配石中央西に隣接	32×30×38	10YR3/2	4号掘立柱建物。かわらけ破片1
231	8号配石南端南1m	36×35×33	10YR3/2	平安灰釉陶器破片1、第30図
232	8号配石南端南西25cm	30×30×28	10YR3/2	
233	9号配石南端南1m	44×40×32	10YR3/2	
234	9号配石南端南東3m	43×？×45	10YR3/2	13号掘立柱建物



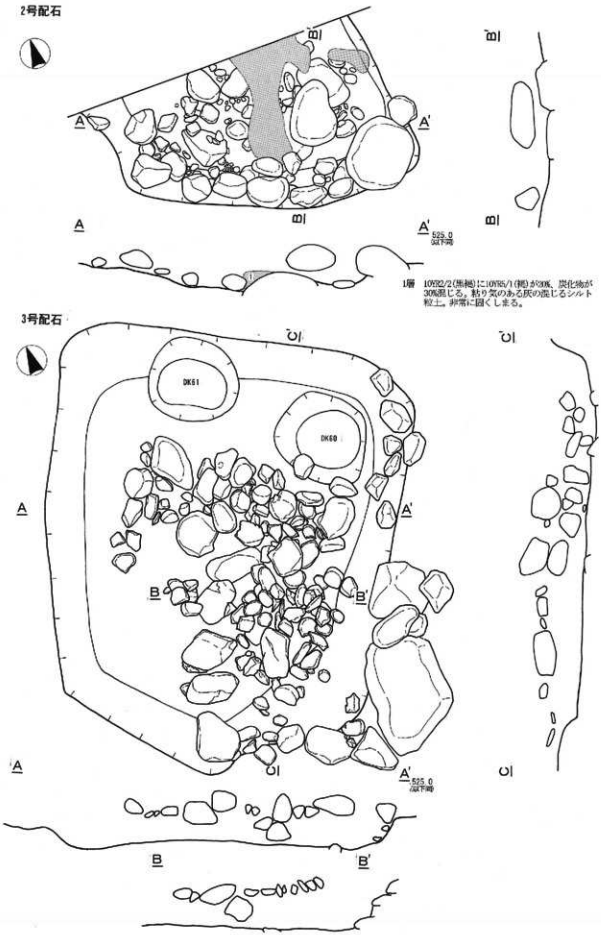
第７図　１号住居(1/40) １号住居カマド(1/20) 出土遺物(1/2)



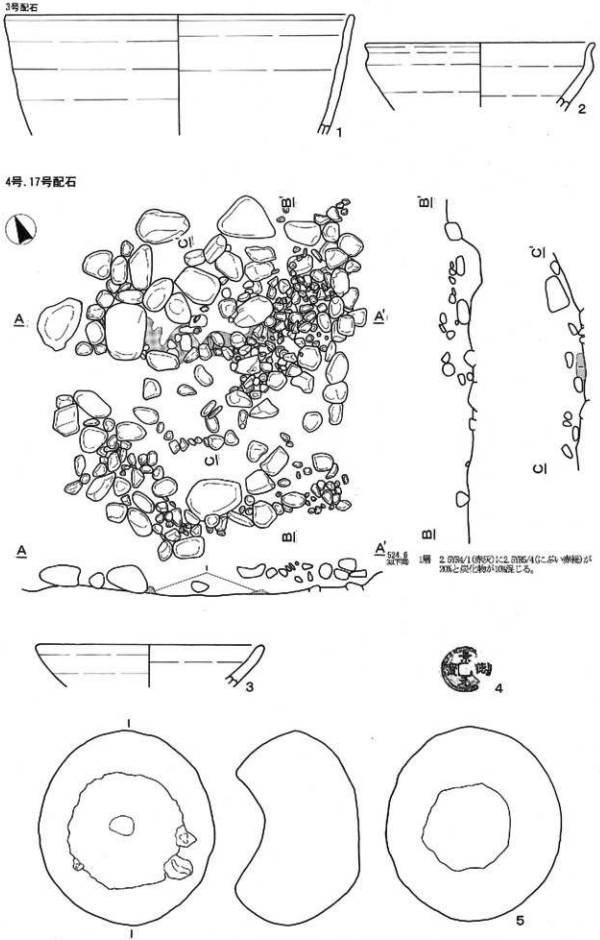
第８図　１号、２号溝(1/80) １号、２号溝エベレーション(1/40) 出土遺物(1/2)



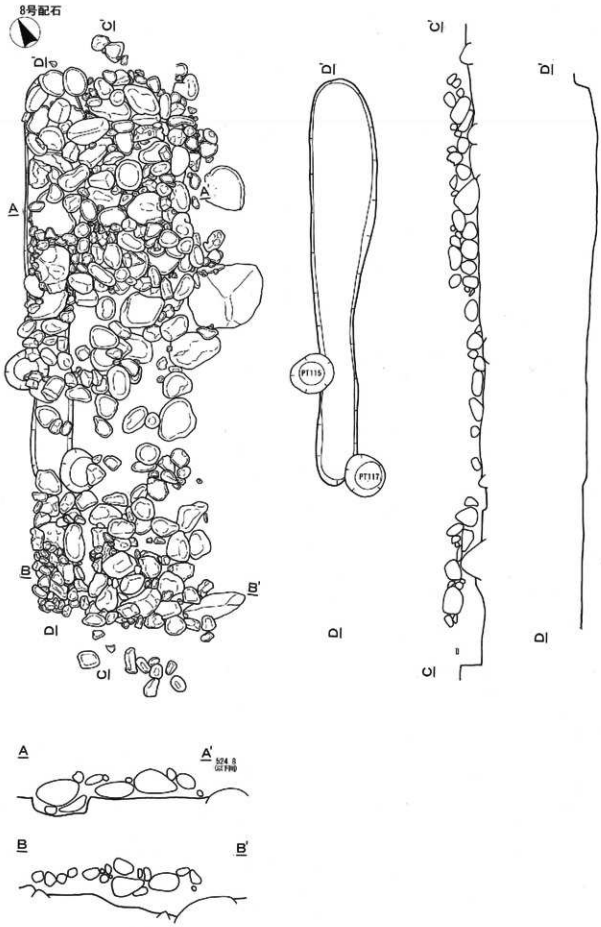
第９図　１号、２号集石(1/20) １号配石(1/40) 出土遺物(1/2)



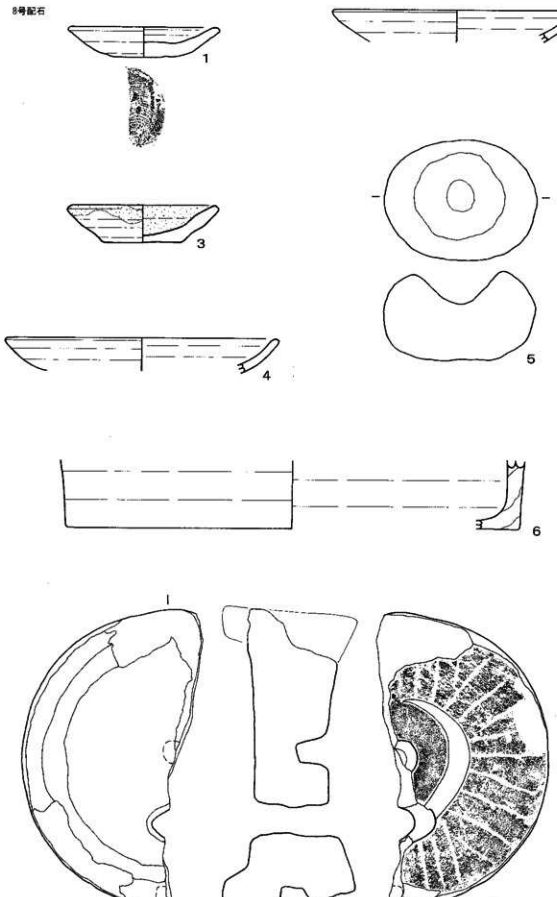
第10図　2号、3号配石(1/40)



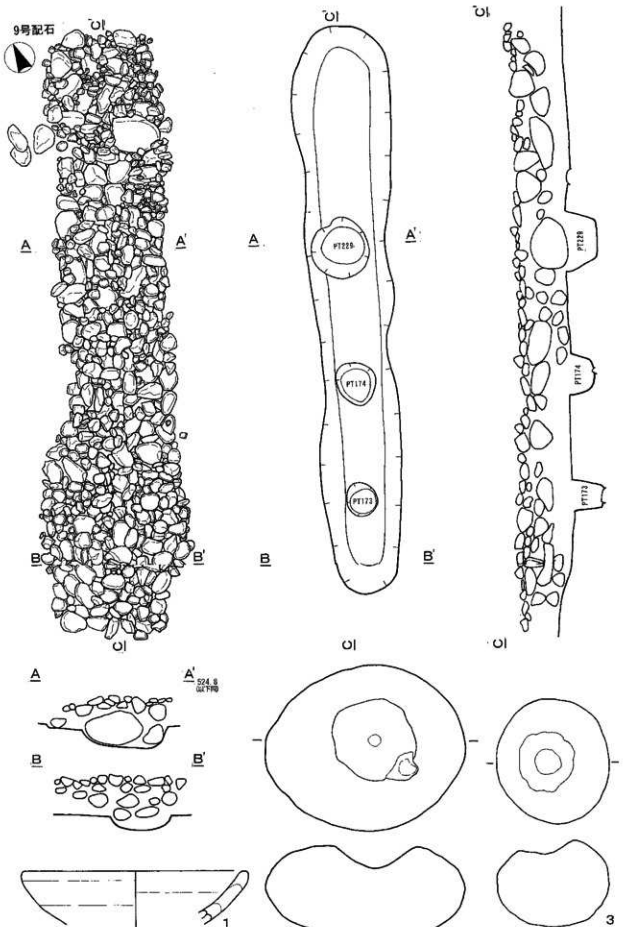
第11図　4号、17号配石(1/40)　出土遺物(1/2、1　1/4)



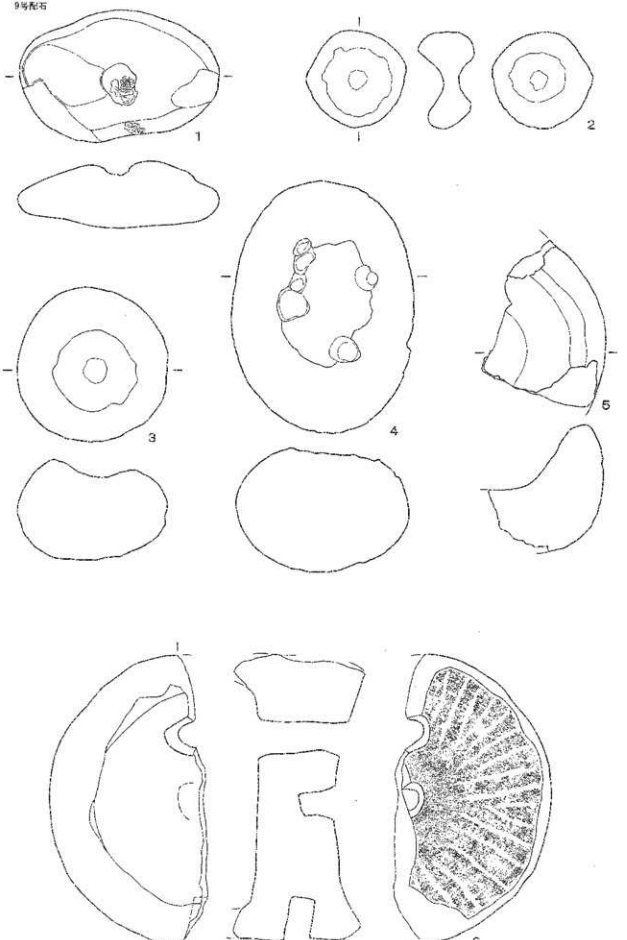
第12図　8号配石(1/40)



第13図　出土遺物(1/2、 5・7　1/4)

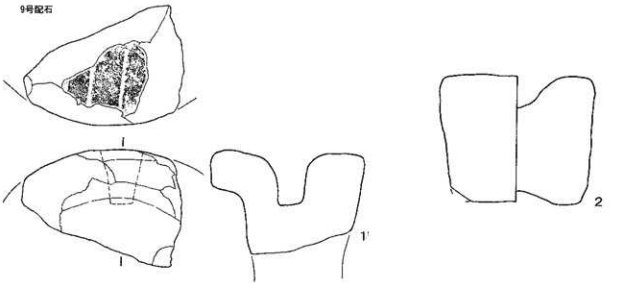


第14図　9号配石(1/40)　出土遺物(1/2、2・3　1/4)

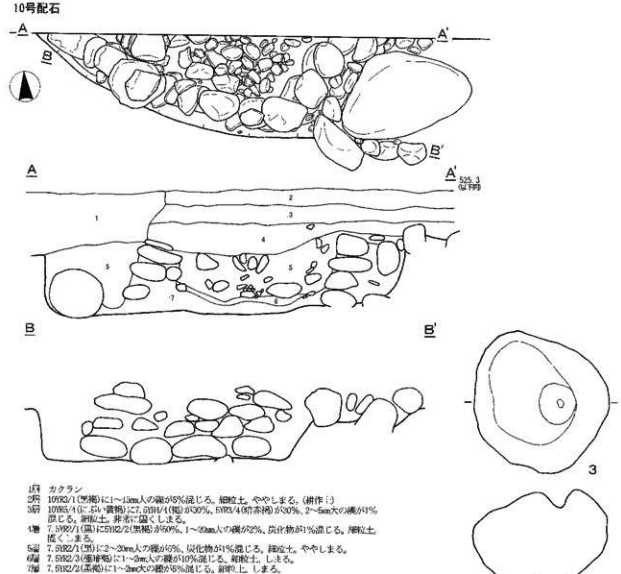


第15図　出土遺物(1/4、3・4　1/2)

9号配石



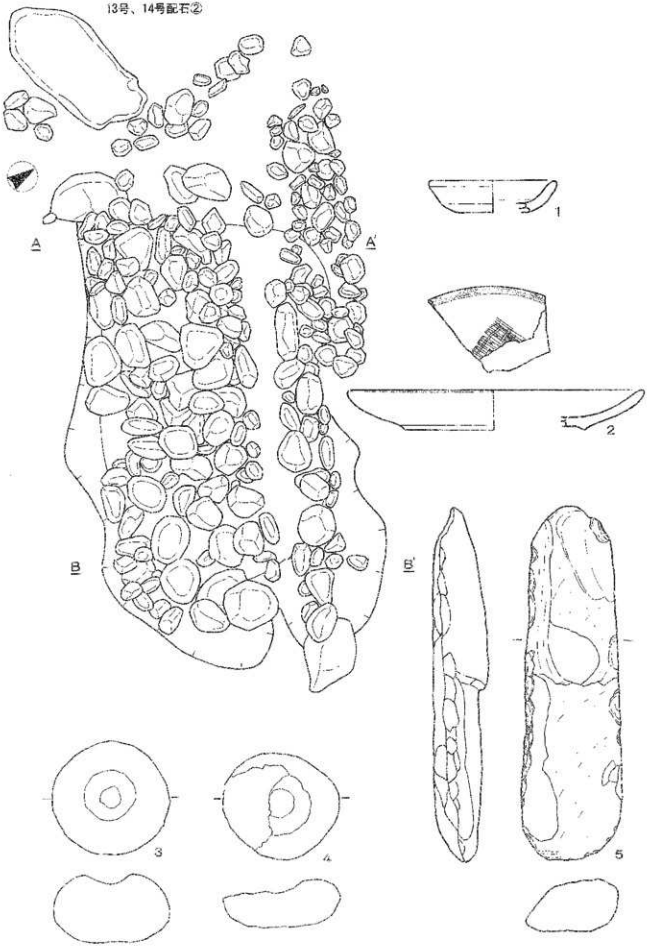
10号配石



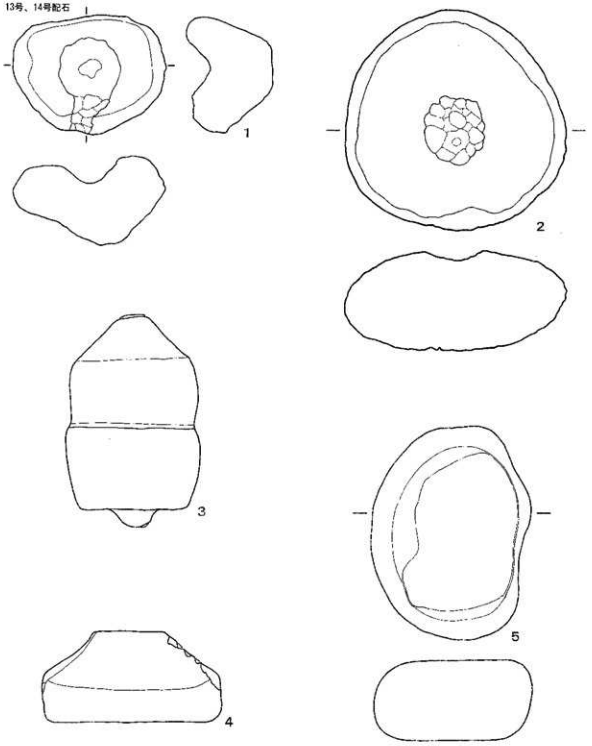
1層　カクラン
2層　10YR3/1(黒褐)に1～15mm大の礫が5%混じる。細粒土。ややしまる。(耕作土)
3層　10BR/4(にぶい黄橙)に7.5YR4/4(明赤褐)が30%、5YR5/4(明赤褐)が20%、2～5mm大の礫が1%混じる。細粒土。非常に固くしまる。
4層　7.5YR2/1(黒)に5YR2/2(黒褐)が60%、1～20mm大の礫が2%、炭化物が1%混じる。細粒土。固くしまる。
5層　7.5YR2/1(黒)に2～20mm大の礫が5%、炭化物が1%混じる。細粒土。ややしまる。
6層　7.5YR2/3(極暗褐)に1～2mm大の礫が10%混じる。細粒土。しまる。
7層　7.5YR2/2(黒褐)に1～2mm大の礫が5%混じる。細粒土。しまる。

第16図　10号配石(1/40) 出土遺物(1/4)

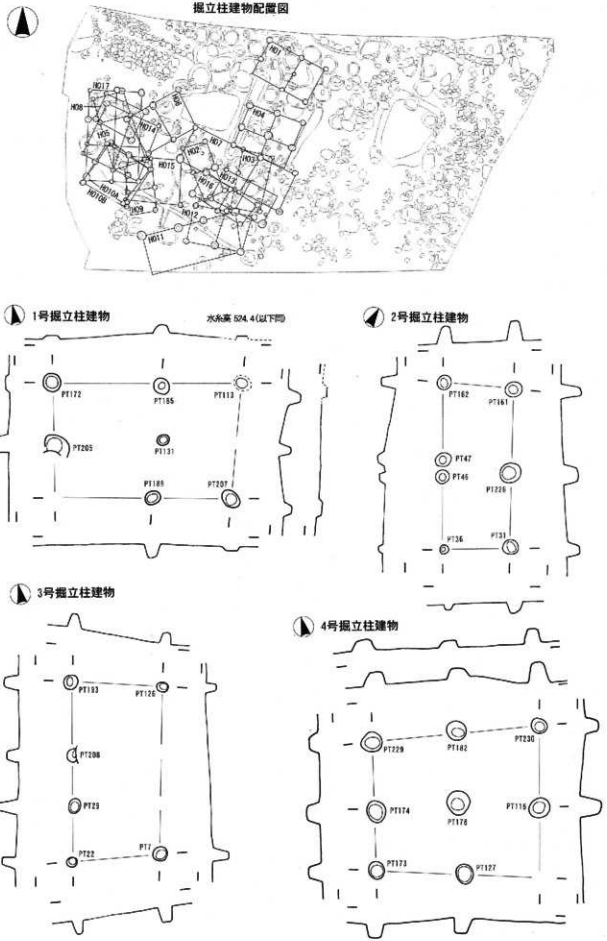
第17図　13号、14号配石①(1/40)



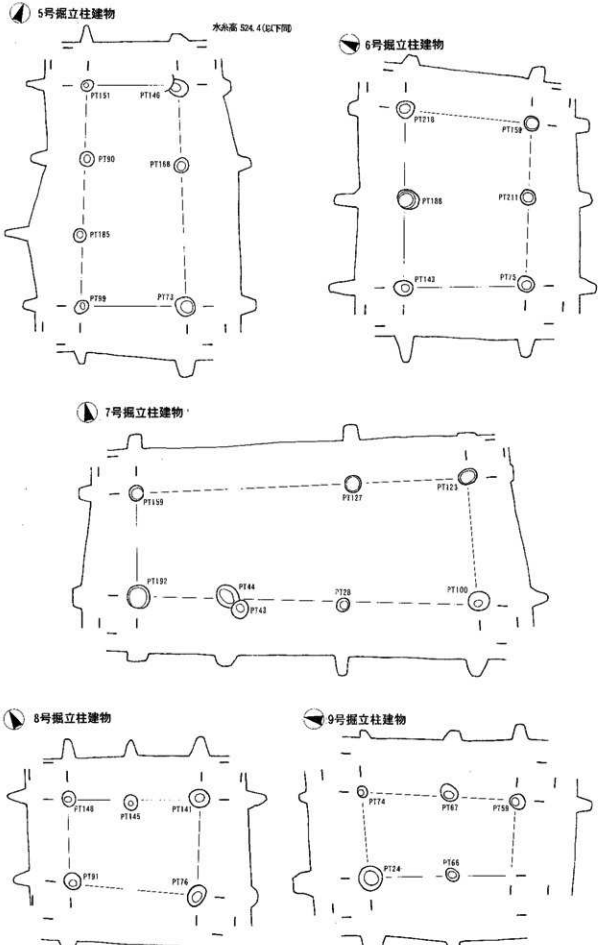
第13図　13号、14号配石②(1/40)　出土遺物(1/2、3・4　1/4)



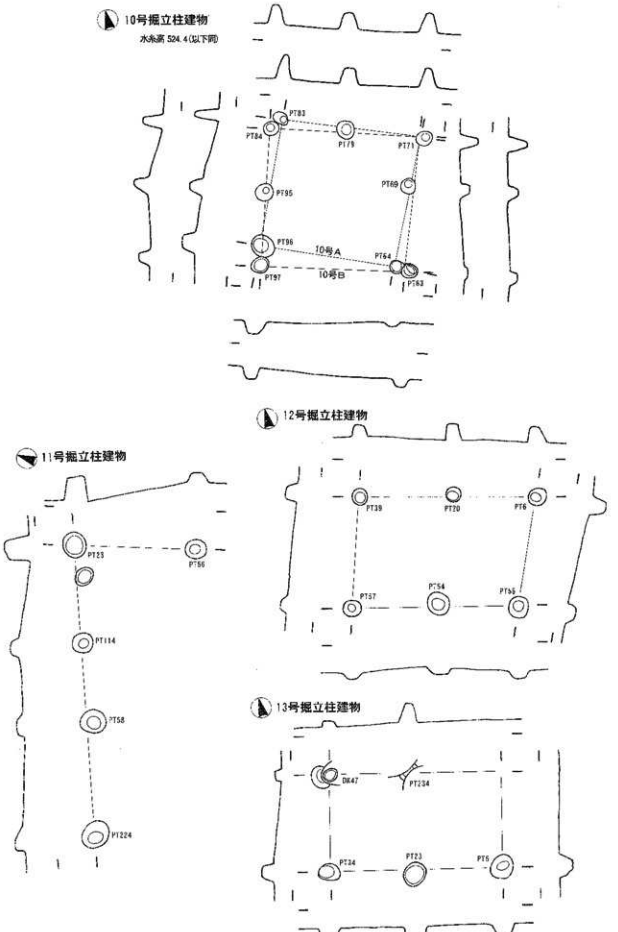
第19図　出土遺物(1/4、5　1/2)



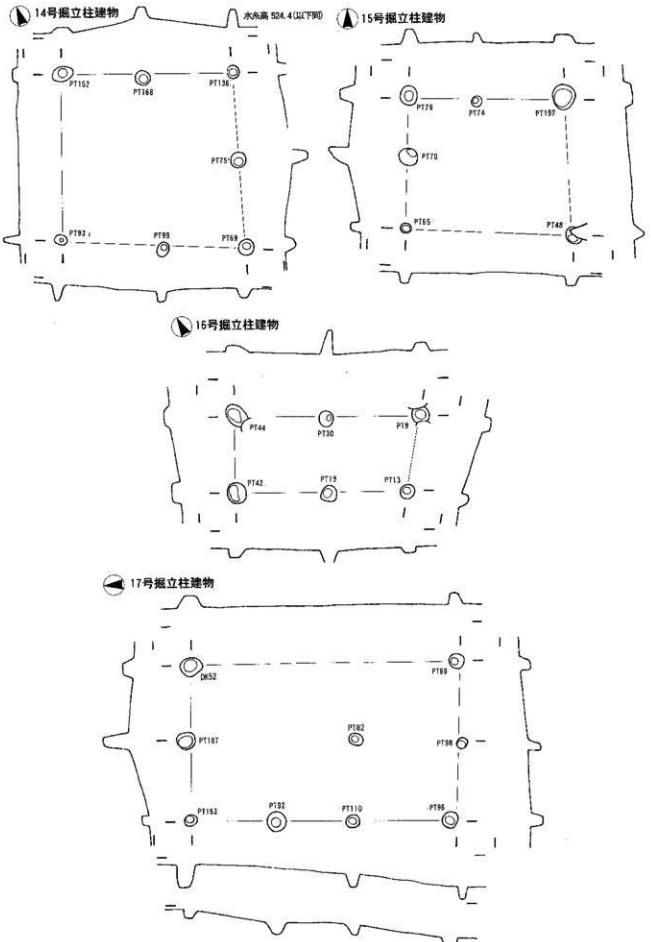
第 20 図　掘立柱建物配置図(1/240)　掘立柱建物(1/80)



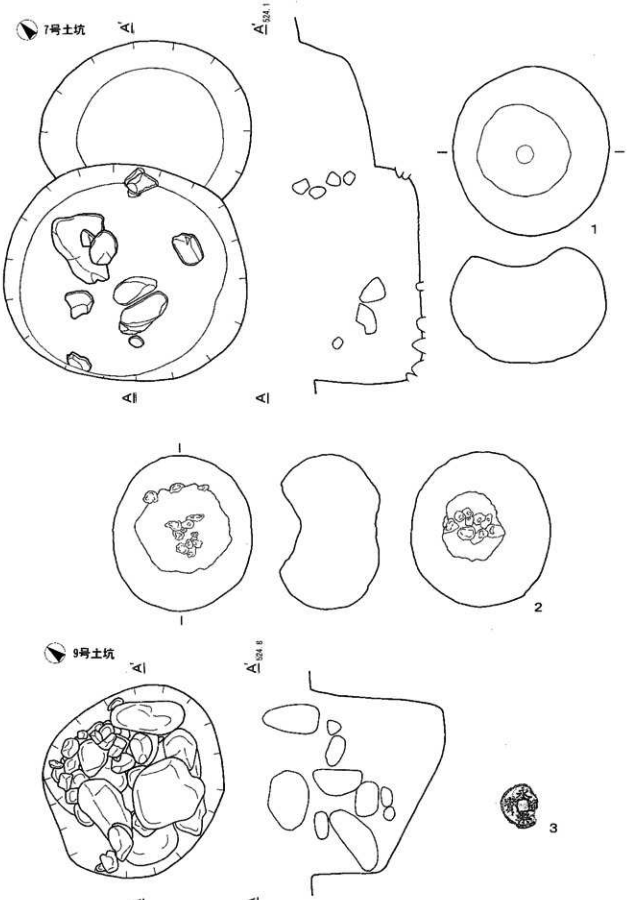
第 21 図　掘立柱建物(1/80)



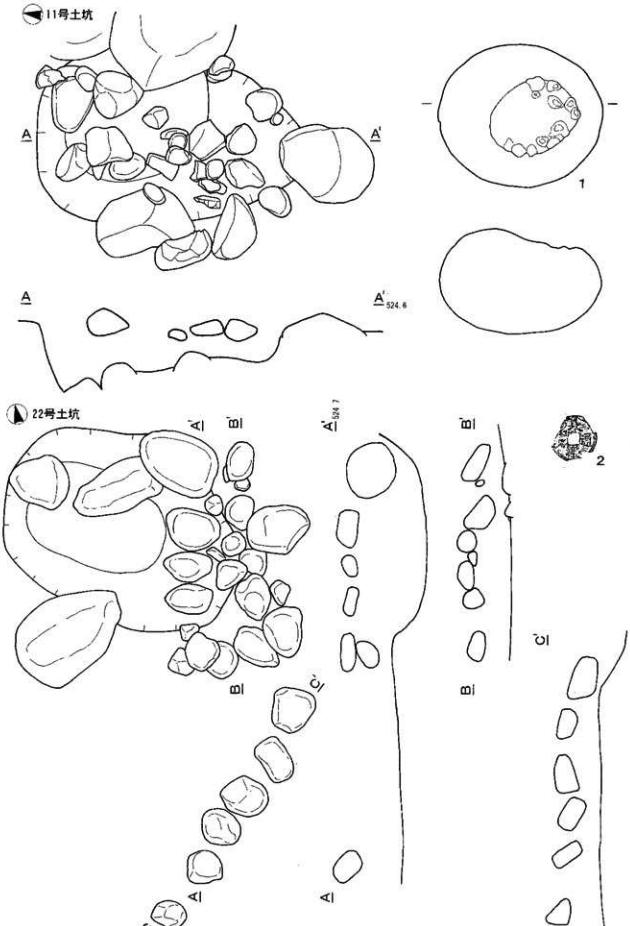
第 22 図　掘立柱建物(1/80)



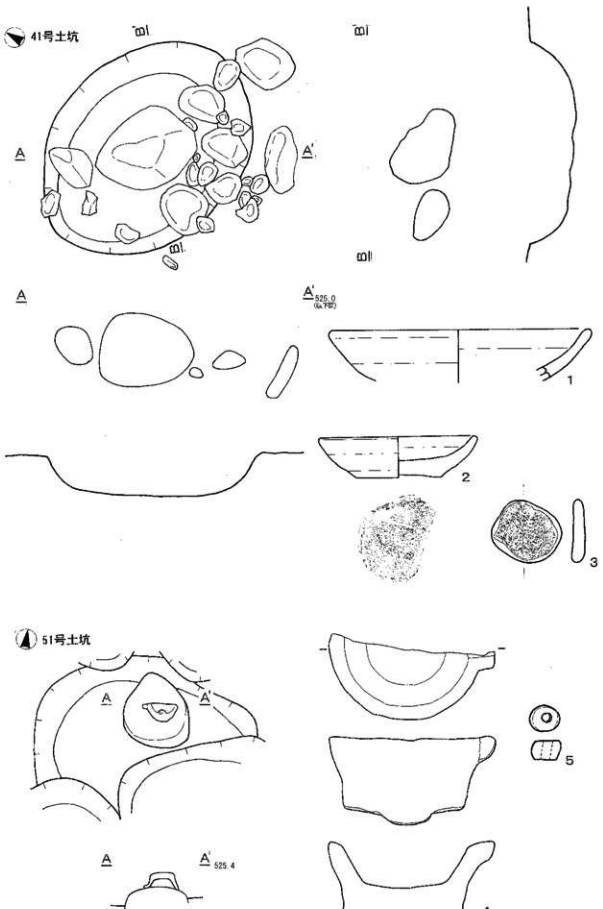
第 23 図　掘立柱建物(1/80)



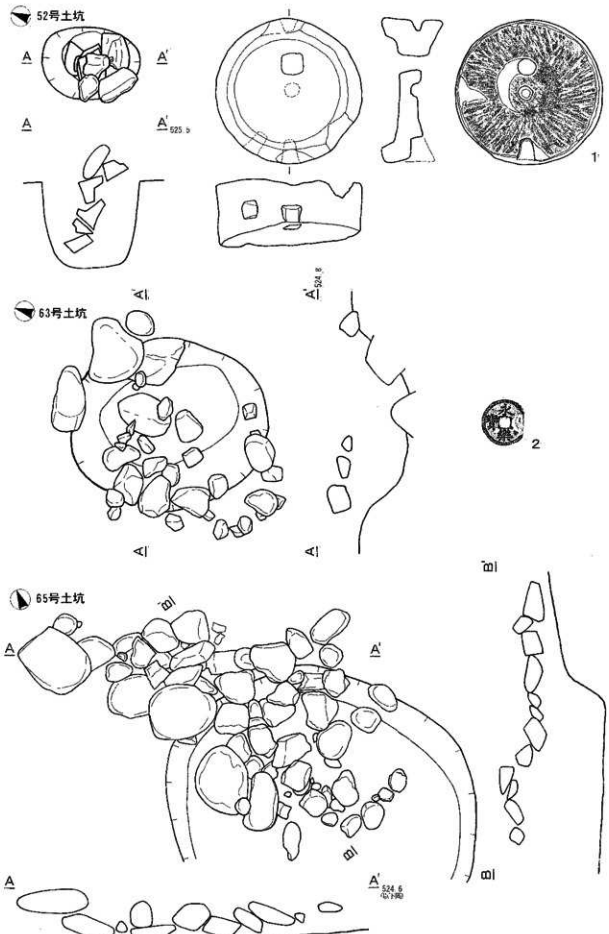
第24図　7号、9号土坑(1/20) 出土遺物(1/2)



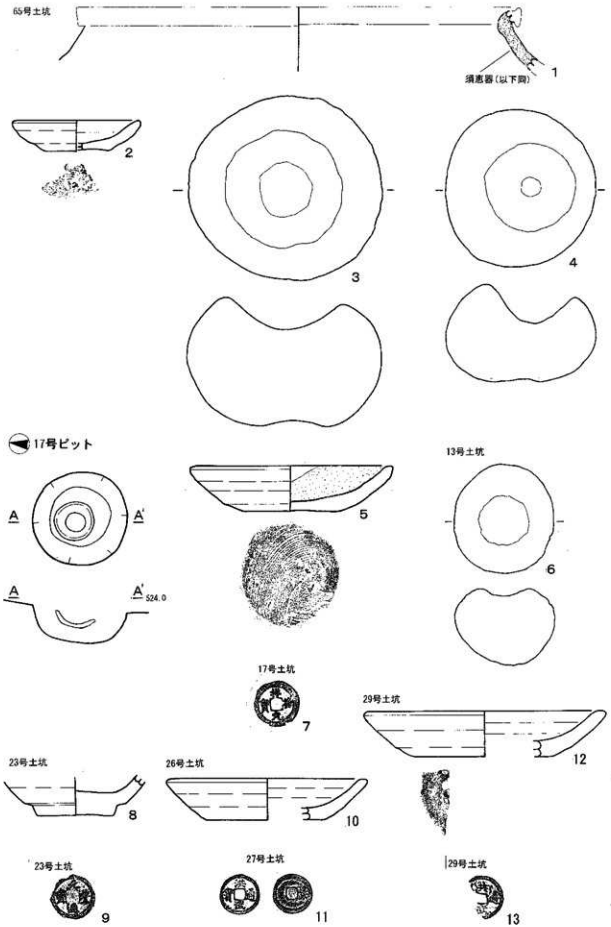
第 25 図　11 号、22 号土坑(1/20) 出土遺物(1/2)



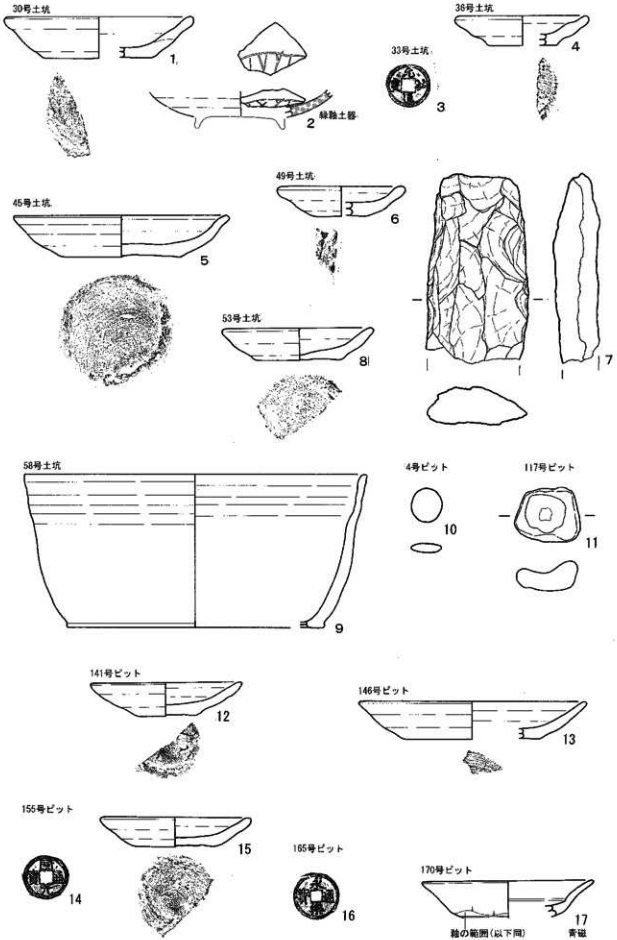
第 26 図　41 号土坑(1/20)、51 号土坑(1/40) 出土遺物(1/2、 4　1/8　5　1/1)



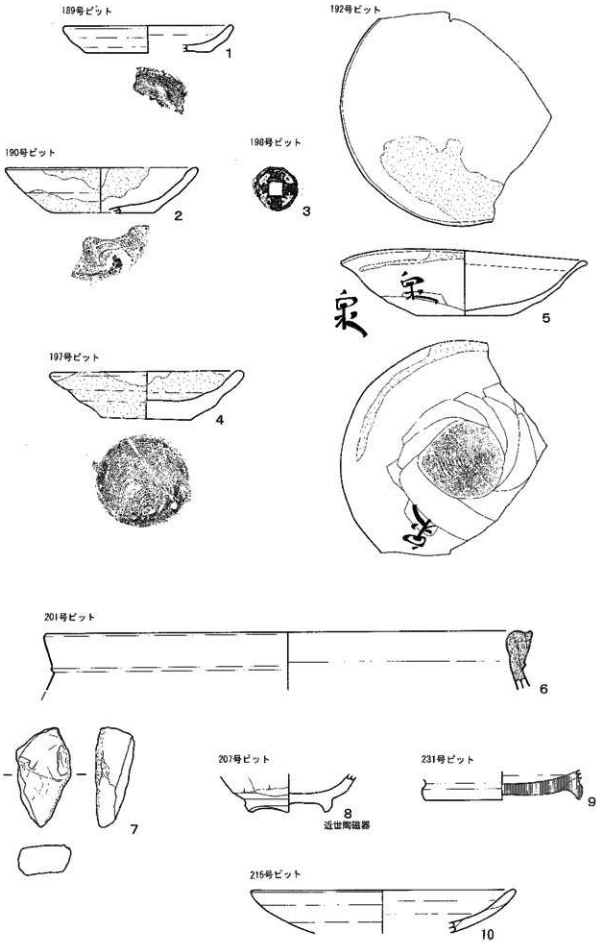
第 27 図　52 号、63 号、65 号土坑(1/20) 出土遺物(1/2、1 1/8)



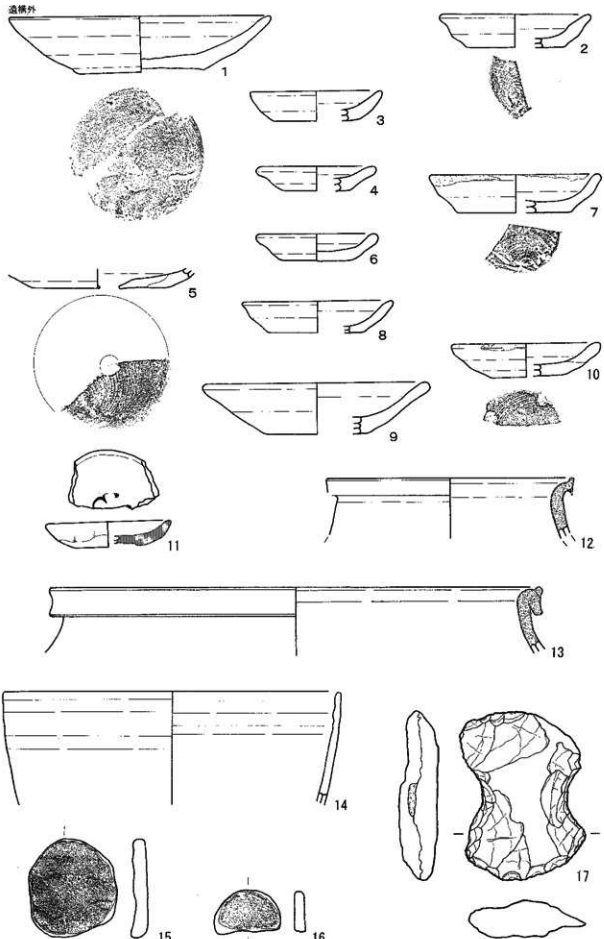
第28図　17号ピット(1/10)、土坑・ピット　出土遺物(1/2、 1・4・6 1/4)



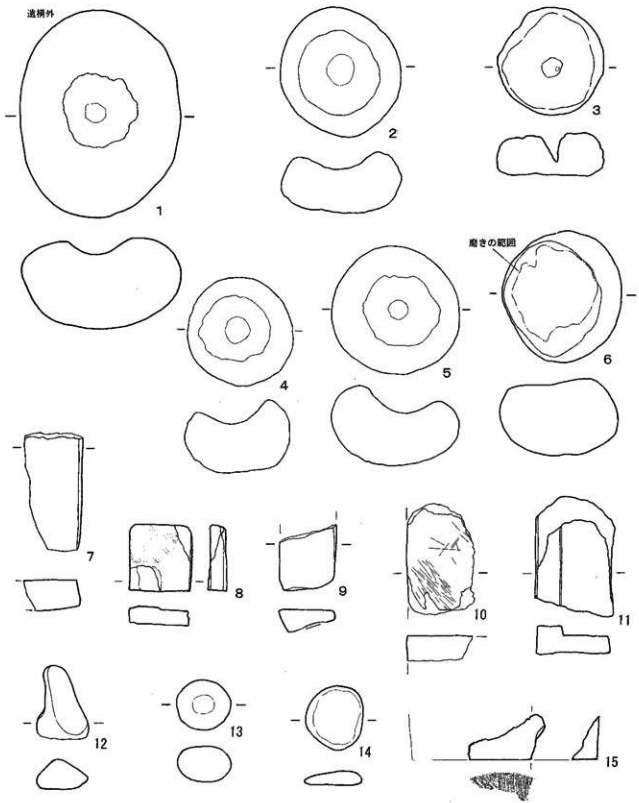
第29図　土坑・ピット出土遺物(1/2、 9　1/4)



第30図　土坑・ピット出土遺物(1/2、 6　1/4)



第 31 図　造構外出土遺物(1/2、 12～14　1/4)



第32図　造構外出土遺物(1/2、 4・5・15　1/4)

写　真　図　版

御崎前遺跡遠景（東上空より須玉総合支所方向を望む）

御崎前遺跡全景（写真右側の礫原は須玉川起源の自然堤防）

御崎前遺跡全景（西より須玉川方向を望む）

御崎前遺跡近景（中世の配石面の状況）

御崎前遺跡の基本層序（写真 中央やや下の礫層が中世の配石面）

１号住居カマド

1号溝

2号溝（左右方向に走る溝は1号溝）

1号集石検出状況

1号集石半截状況

2号集石検出状況（写真上方の小礫群）

2号集石完掘状況

1 号配石

2 号配石

3 号配石検出状況

3 号配石完掘状況（配石面下層には落ち込みがあった）

4 号 (17 号) 配石

8 号配石検出状況

8 号配石下層の石列と溝

9 号配石検出状況（手前側の配石 奥は 8 号配石）

9号配石下層の石列

9号配石下層の溝（石列下で溝が検出された）

10 号配石

13・14 号配石

13 号・14 号配石下層の配石面

1 号・4 号掘立柱建物

7 号土坑

9 号土坑

11 号土坑

41 号土坑

51 号土坑

52 号土坑

65 号土坑上面の配石

65 号土坑完掘状況

17 号ピット

197 号ピット

平安時代の土器

墨書土器と石製品

中世の土器

中世の石器

中世の石器

2号溝遺物出土状況

1号集石完掘状況

1 号配石検出状況

1 号配石底面の灰と炭化材の検出状況

2 号配石検出状況

2 号配石底面の灰と炭化材の検出状況

3 号配石の発掘状況

4 号 (17 号) 配石の検出状況

4号(17号)配石の上層礫を取り除いたところ

8号・9号配石の検出状況

10 号配石の検出状況

10 号配石の発掘状況

13 号・14 号配石の下層配石

13 号・14 号配石全景

調査地点の北隣接地にある石塔類

調査着手前の調査地点
（西から須玉川方向を望む）

重機による表土剥作業

作業風景

報告書抄録

ふりがな	みさきまえいせき
書名	御崎前遺跡Ⅰ
副題	市道若神子大蔵線工事に伴う発掘調査報告書
シリーズ名	北杜市埋蔵文化財調査報告　第14集
著者	佐野　隆
発行機関	山梨県峡北地域振興局建設部　北杜市教育委員会
編集機関	北杜市教育委員会
所在地／電話	〒408-0188　山梨県北杜市須玉町大豆生田961-1　　0551(42)1373
印刷所	峡北印刷
発行日	平成18年（2006）3月31日

ふりがな	やまなしけんほくとしすたまちょうあざみさきまえちない
所在地	山梨県北杜市須玉町字御崎前地内
位置	北緯35° 47′ 23″　東経138° 27′ 45″
調査原因	市道若神子大蔵線工事に伴う緊急発掘
調査期間	平成17年9月9日～平成17年10月21日
調査機関	北杜市教育委員会生涯学習課文化財担当
調査面積	423㎡
時期	平安時代・中世
主な遺構	平安時代の竪穴住居1軒　溝状遺構2条　中世の配石遺構14基　土坑61基 掘立柱建物17棟　ピット231基　焼土跡1ヶ所　集石土坑2基
主な遺物	平安時代から中世の土器及び石器
特記事項	佐久往還の若神子宿に関連した遺跡か。

北杜市埋蔵文化財調査報告　第14集
御崎前遺跡Ⅰ
市道若神子大蔵線工事に伴う発掘調査報告書

2006年3月25日　印刷
2006年3月31日　発行

発 行　山梨県峡北地域振興局建設部
北杜市教育委員会
山梨県北杜市須玉町大豆生田961-1
TEL　(0551)42-1373

印 刷　峡北印刷株式会社
山梨県北杜市長坂町長坂上条 2313
TEL　(0551)32-3245